

The background is a solid light green color. In the upper left, there is a large, stylized tree shape created with dense, brown, hand-drawn scribbles. The tree's canopy is roughly triangular, and its trunk is a vertical line. A large white circle is positioned in the upper right, partially overlapping the tree's canopy. At the bottom of the page, there is a large white shape resembling a cloud or a stylized flower, with three rounded lobes. The entire page is framed by a thin white border.

資料編

資料 1. アンケート調査結果

1) 町民アンケート調査

(1) 調査概要

調査対象	町内在住の 15 歳から 79 歳※までの男女 2,000 人 ※令和 6 年 3 月 31 日時点									
抽出方法	住民基本台帳からの無作為抽出 ※実際の年齢構成比と既往アンケート調査の年代別回収率を踏まえ、年代別の抽出数を決定									
調査方法	調査票の配布、記入式または web 回答									
調査期間	令和 6 年 8 月 29 日(木)～令和 6 年 9 月 18 日(水)									
回収数		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	無回答	全体
	配布数	227	340	341	292	272	264	264	-	2,000
	有効回収票	49	60	86	95	84	122	102	10	608
	回収率	21.6%	17.6%	25.2%	32.5%	30.9%	46.2%	38.6%	-	30.4%

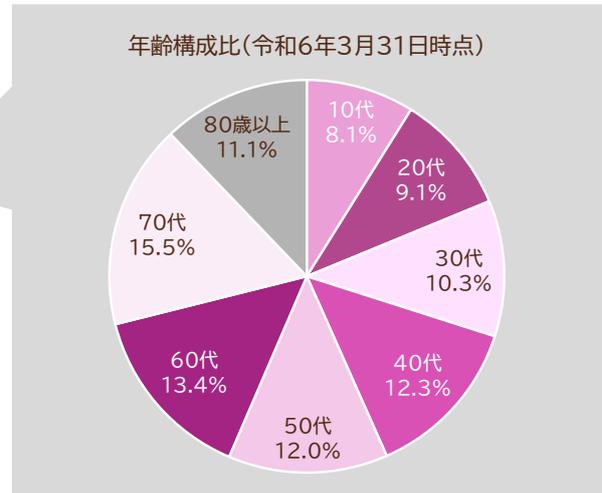
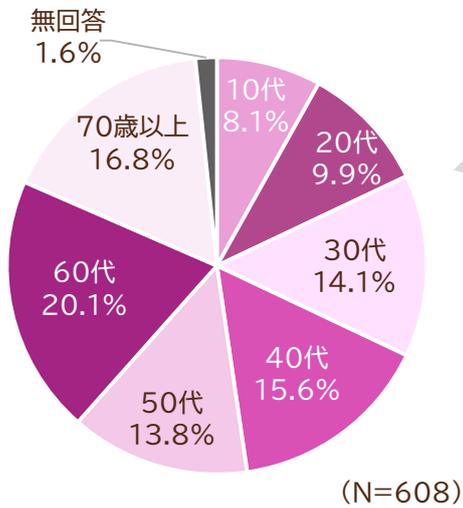
【調査結果の見方について】

- 小数点第 2 位を四捨五入している関係で、表やグラフ合計が 100%にならない場合があります。
- 表やグラフに記載の「N」はその設問のサンプル数(有効回答数)を示します。
- 一部の設問については、前の設問の回答等により、一部の方を対象としているため、全体のサンプル数と一致しません。
- 2 つ以上の設問項目を組み合わせて集計(クロス集計)した結果については、無回答・無効回答を除くため、全体のサンプル数と一致しません。
- 第 1 期総合戦略策定時(平成 27 年度)に実施したアンケート調査結果より、一部の同じ設問については比較整理を行っていますが、過年度調査は 18 歳～49 歳を対象としているため、10～40 代に絞って再集計しています。
- また、過年度調査結果は「無回答」を除くため、合計は 100%に一致しません。
- 自由意見については、いただいたご意見・ご要望から一部を抜粋しており、掲載している文面については、意味を損なわない範囲で要約・修正を行っています。

(2) 調査結果

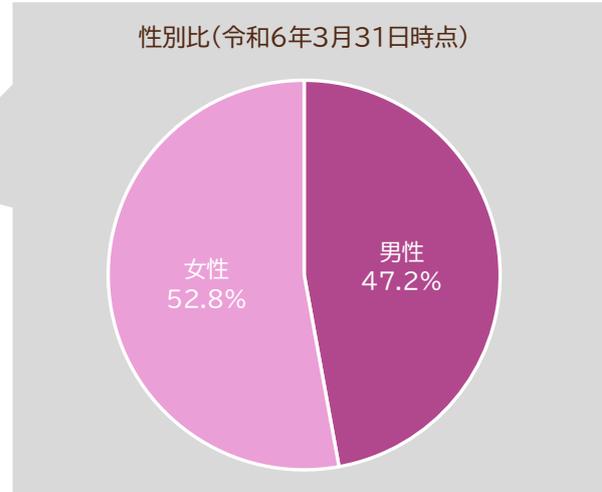
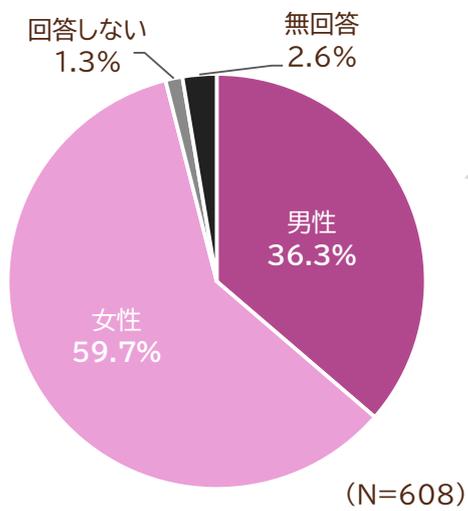
○基本属性

・年齢



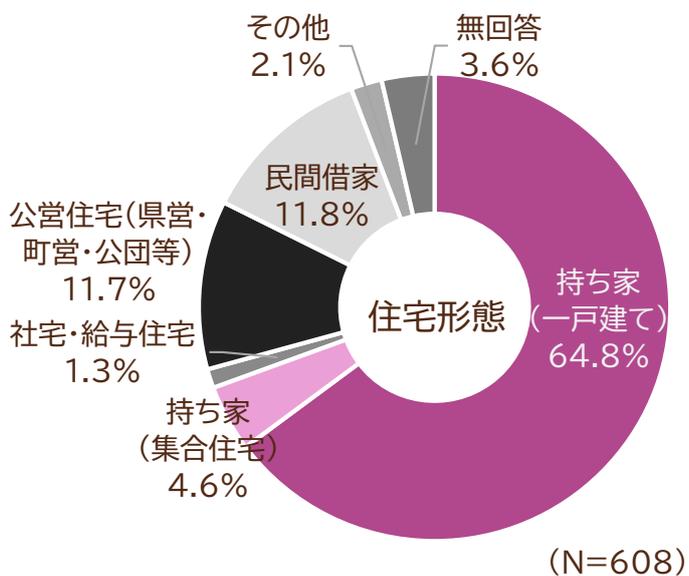
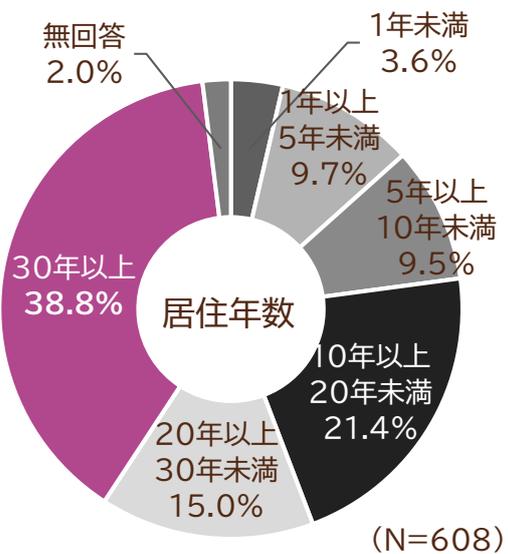
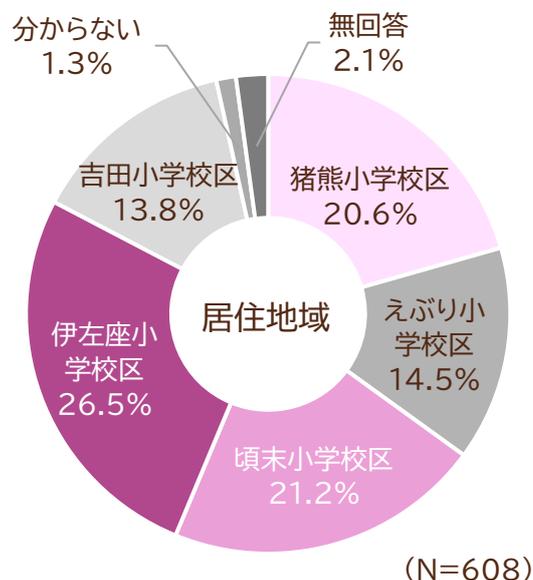
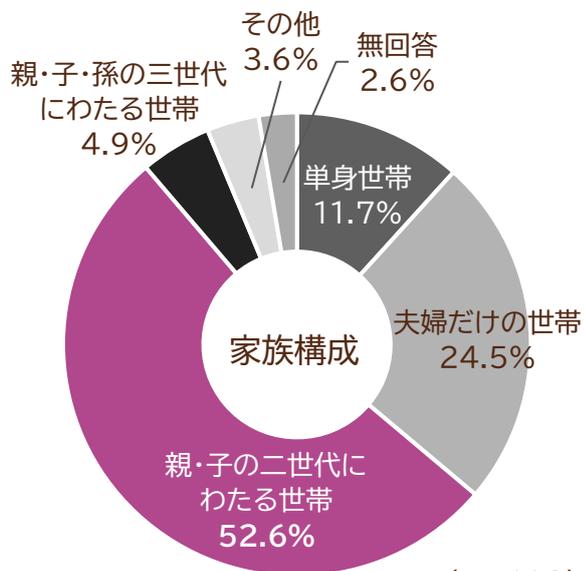
※住民基本台帳に基づく実際の年齢構成比です。

・性別



※住民基本台帳に基づく実際の性別比です。

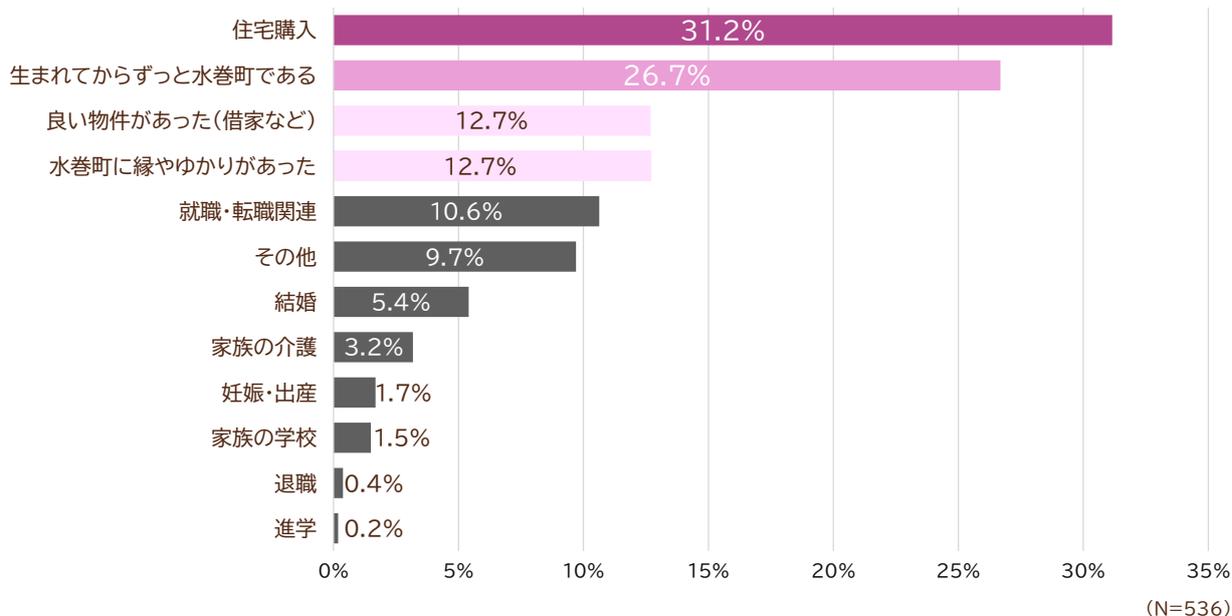
・その他



○水巻町に住んでいる・住むようになった理由

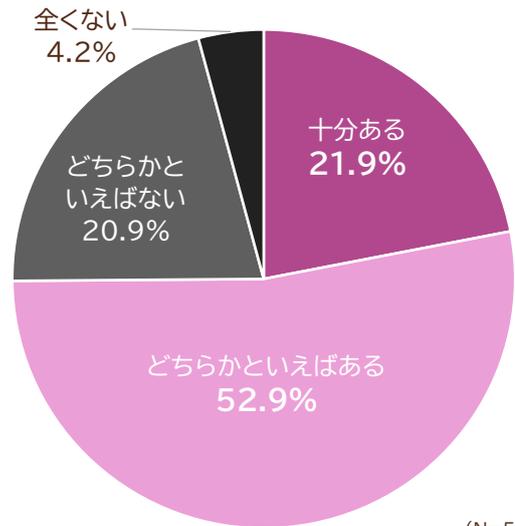
(該当するもの最大2つまで選択)

		進学	就職・転職 関連	退職	結婚	妊娠・出産	家族の学 校	家族の介 護	住宅購入	良い物件 があった (借家な ど)	水巻町に 縁やゆか りがあった	生まれて からずっと 水巻町 である	その他
全体(N=536)		0.2%	10.6%	0.4%	5.4%	1.7%	1.5%	3.2%	31.2%	12.7%	12.7%	26.7%	9.7%
性別	男性(N=210)	0.5%	12.4%	0.5%	3.8%	0.0%	1.4%	4.3%	32.4%	10.5%	11.4%	30.0%	7.6%
	女性(N=312)	0.0%	9.6%	0.3%	6.7%	2.9%	1.6%	2.6%	30.1%	14.7%	13.1%	24.7%	10.3%
	回答しない(N=7)	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	28.6%	42.9%
年代	10代(N=48)	0.0%	4.2%	0.0%	2.1%	0.0%	0.0%	2.1%	6.3%	4.2%	50.0%	75.0%	14.6%
	20代(N=58)	0.0%	19.0%	0.0%	6.9%	1.7%	3.4%	3.4%	8.6%	13.8%	70.7%	46.6%	5.2%
	30代(N=77)	1.3%	13.0%	0.0%	5.2%	6.5%	1.3%	5.2%	32.5%	13.0%	13.0%	23.4%	5.2%
	40代(N=80)	0.0%	15.0%	0.0%	7.5%	1.3%	0.0%	3.8%	23.8%	21.3%	12.5%	15.0%	13.8%
	50代(N=77)	0.0%	13.0%	1.3%	13.0%	1.3%	1.3%	1.3%	33.8%	9.1%	11.7%	19.5%	11.7%
	60代(N=107)	0.0%	3.7%	0.9%	3.7%	0.0%	1.9%	1.9%	40.2%	15.0%	15.9%	22.4%	9.3%
	70歳以上(N=88)	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	1.1%	2.3%	4.5%	52.3%	9.1%	18.2%	11.4%	9.1%



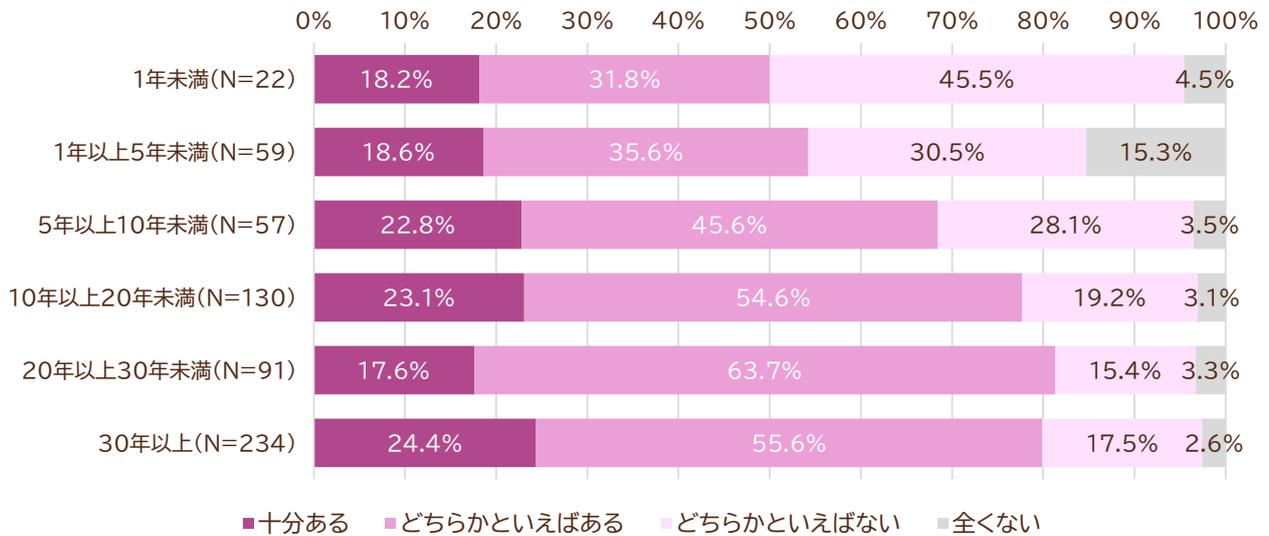
○水巻町に対する誇りや愛着の有無

		十分ある	どちらか といえ ばある	どちらか といえ ばない	全くない
全体(N=597)		21.9%	52.9%	20.9%	4.2%
性別	男性(N=221)	24.4%	50.7%	20.8%	4.1%
	女性(N=361)	20.5%	54.6%	20.8%	4.2%
	回答しない(N=8)	25.0%	37.5%	37.5%	0.0%
年代	10代(N=49)	28.6%	53.1%	16.3%	2.0%
	20代(N=60)	30.0%	46.7%	18.3%	5.0%
	30代(N=86)	17.4%	50.0%	25.6%	7.0%
	40代(N=94)	17.0%	56.4%	22.3%	4.3%
	50代(N=83)	22.9%	49.4%	21.7%	6.0%
	60代(N=122)	22.1%	54.1%	22.1%	1.6%
	70歳以上(N=101)	20.8%	58.4%	16.8%	4.0%



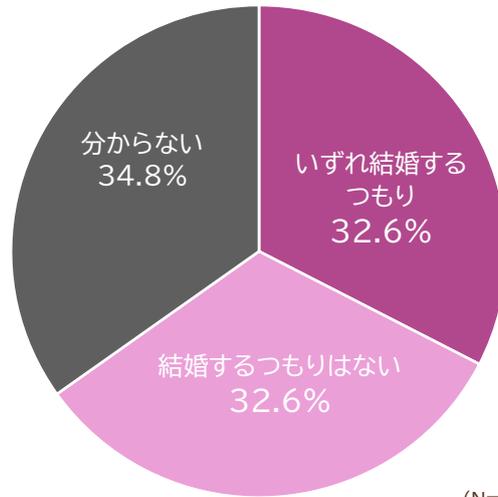
(N=597)

【居住年数とのクロス集計】

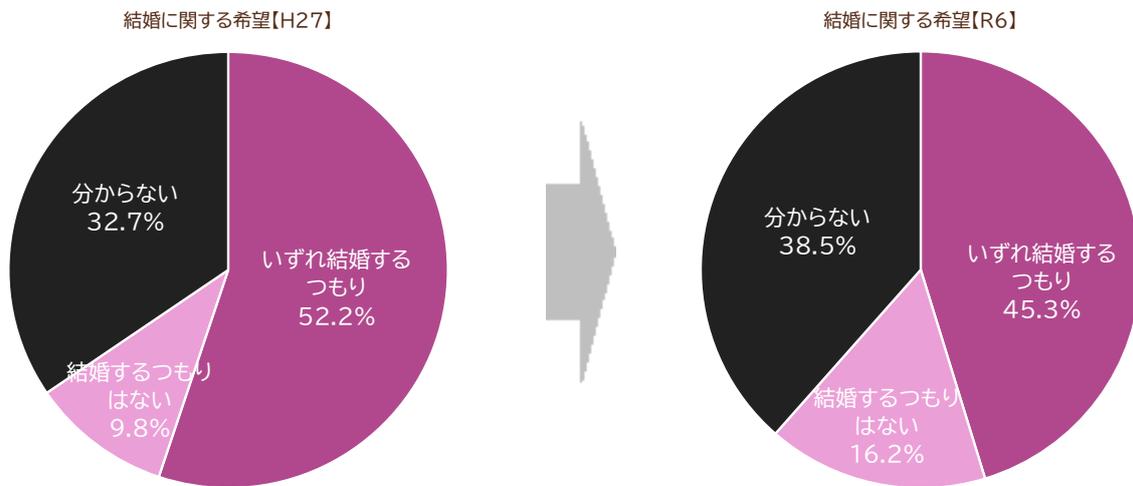


○結婚に関する希望

(独身の方を対象)

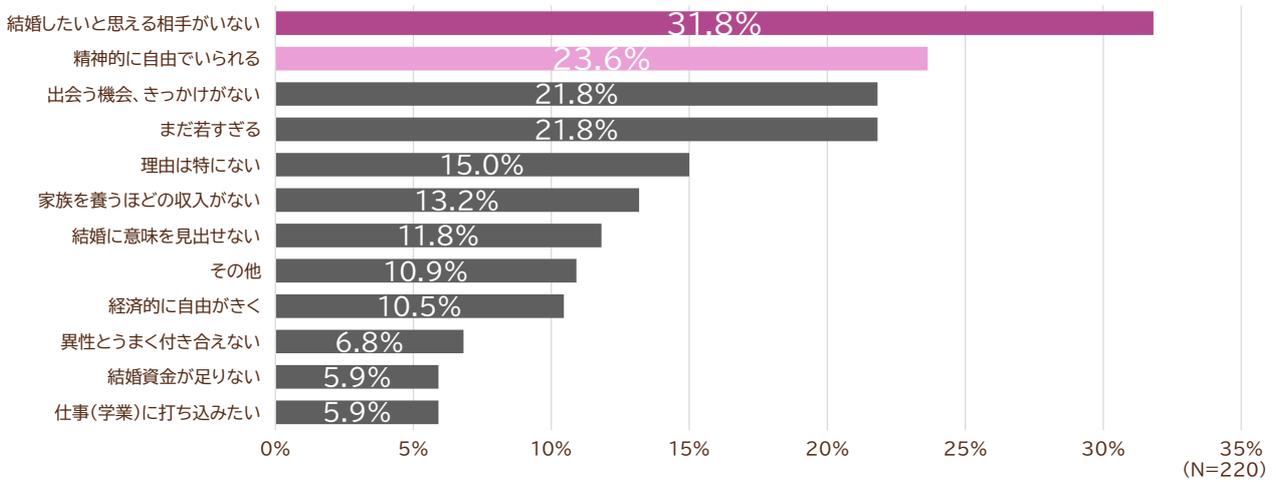


【過年度調査との比較】

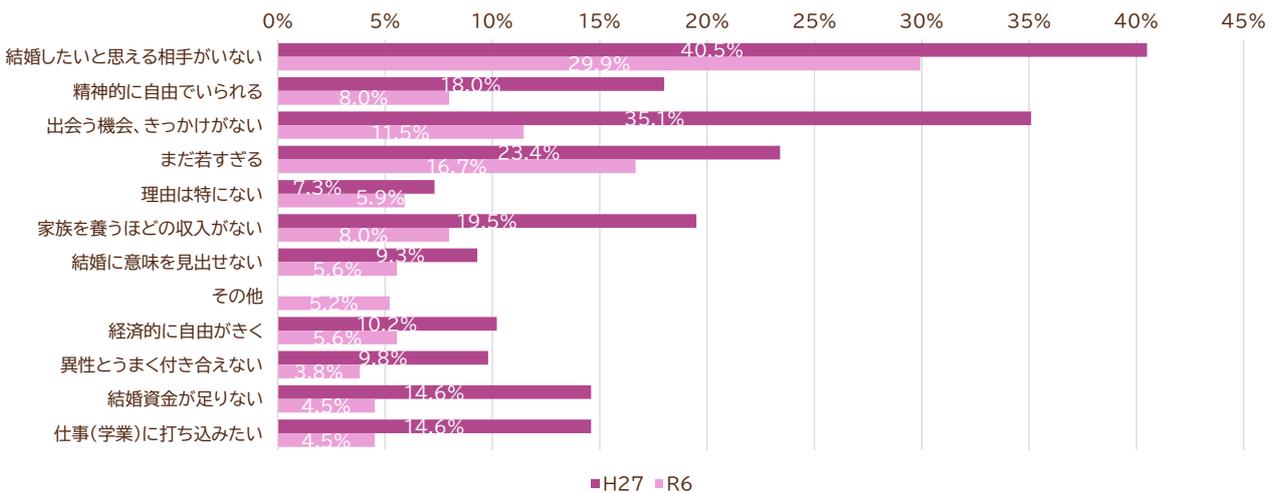


○結婚していない理由

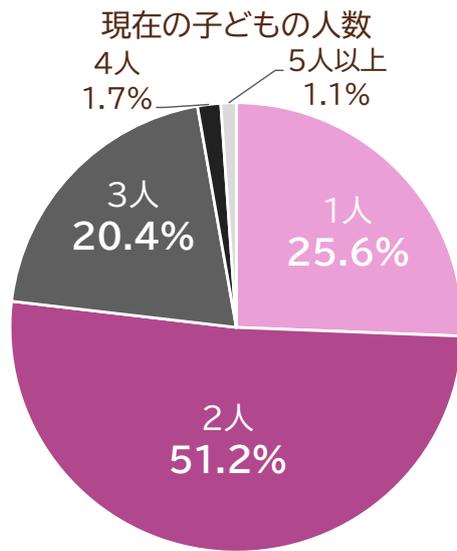
(該当するものを全て選択、独身の方を対象)



【過年度調査との比較】



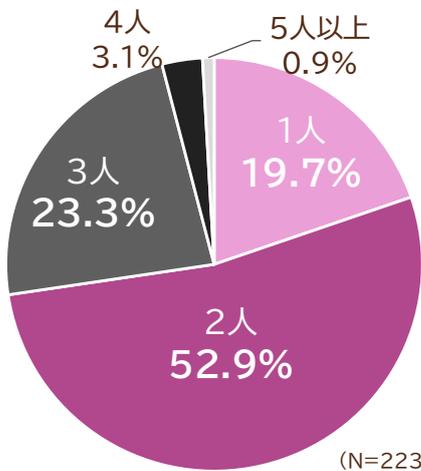
○子どもの人数について



(N=363)

平均人数 2.0人

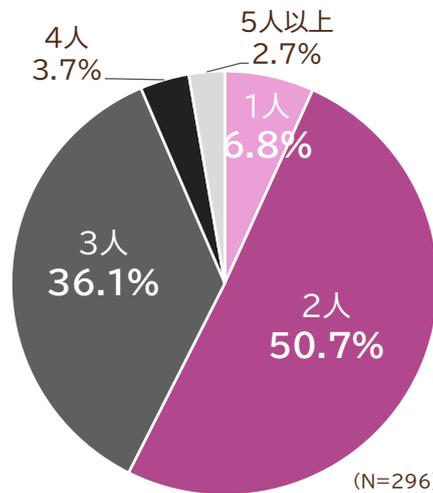
将来的に持つ予定の子ども的人数
※現在の子ども的人数も含む



(N=223)

平均人数 2.1人

理想的な子ども的人数



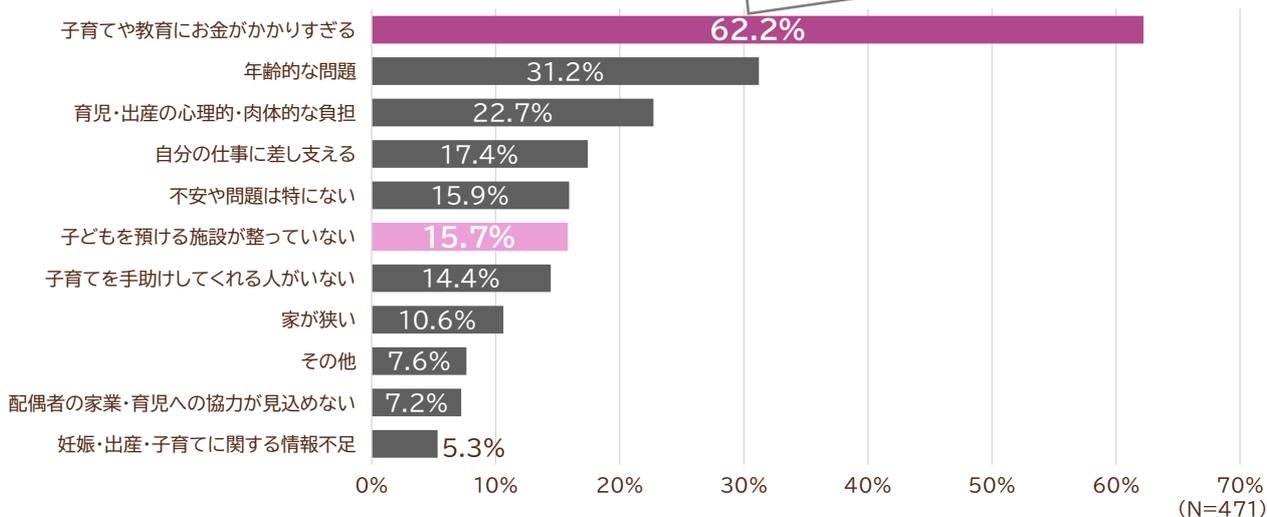
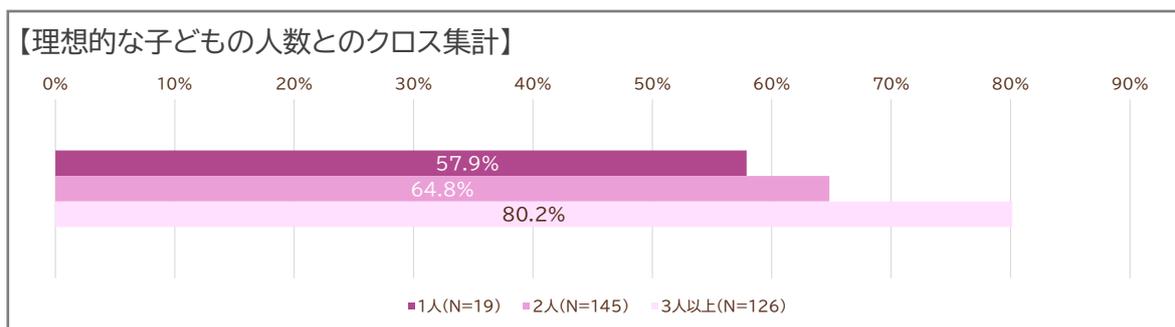
(N=296)

平均人数 2.4人

↔
0.3人

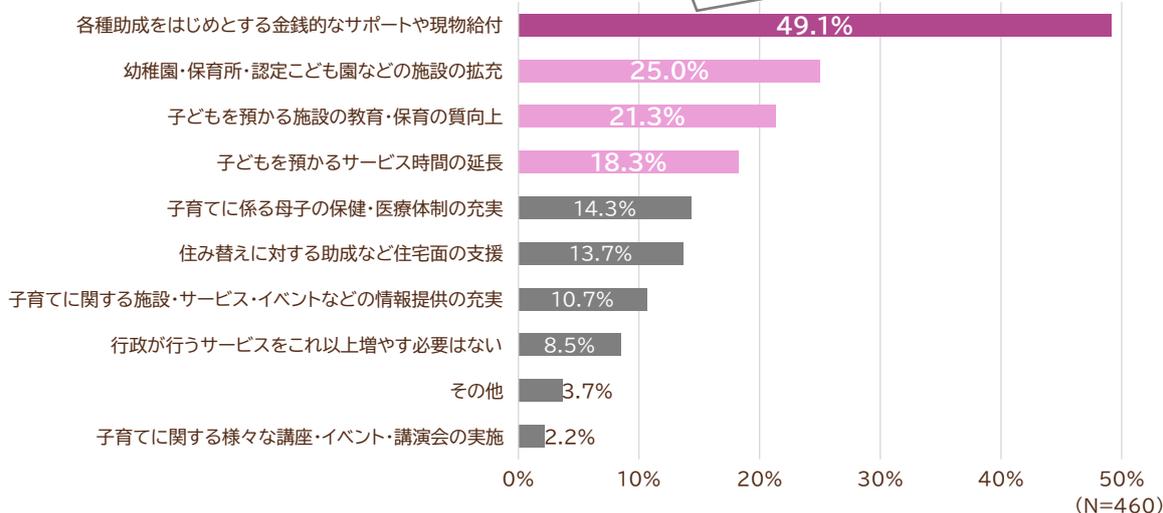
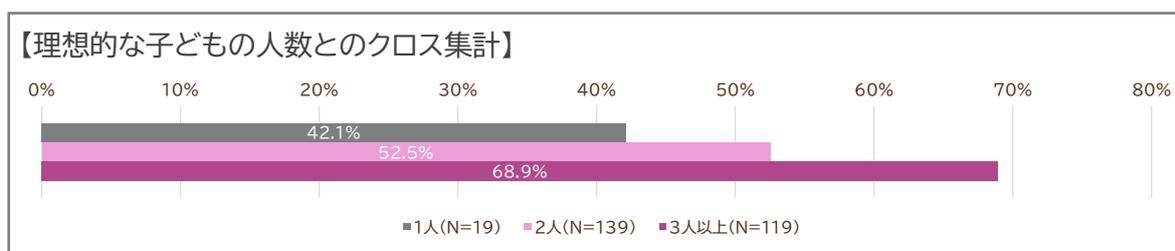
○出産・子育てに関する不安や問題

(該当するものを全て選択)



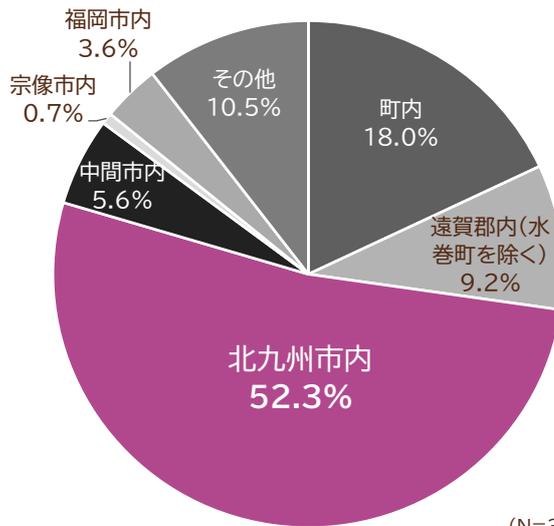
○最も力を入れるべき育児に関するサービス

(該当するものを2つまで選択)



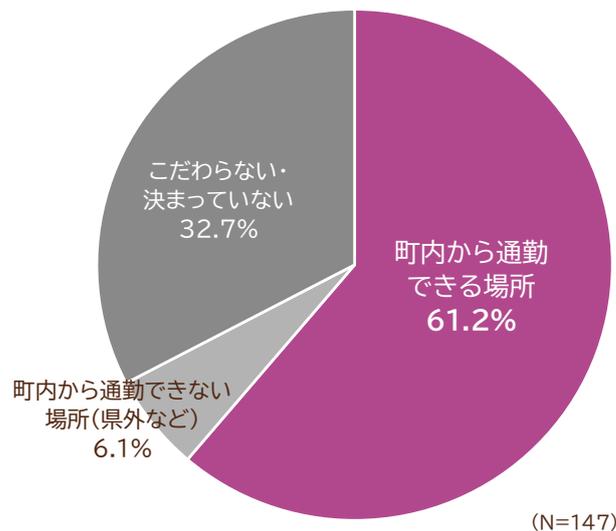
○通勤・通学地

(職業が「主夫・主婦」、「無職」、「その他」と回答した方以外を対象)



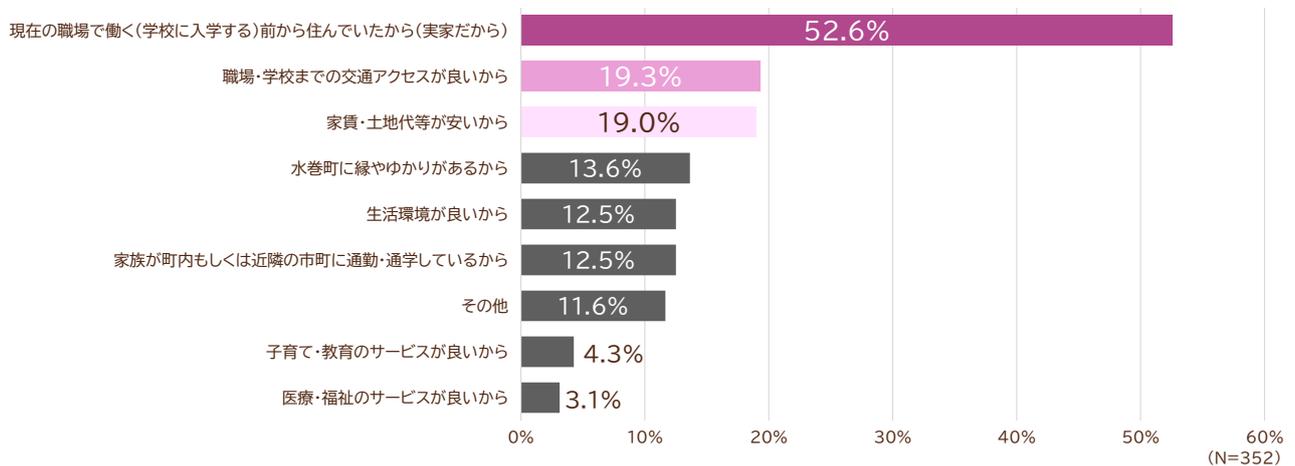
○学生の希望勤務地

(職業が「高校生」、「大学生・専門学生等」と回答した方を対象)



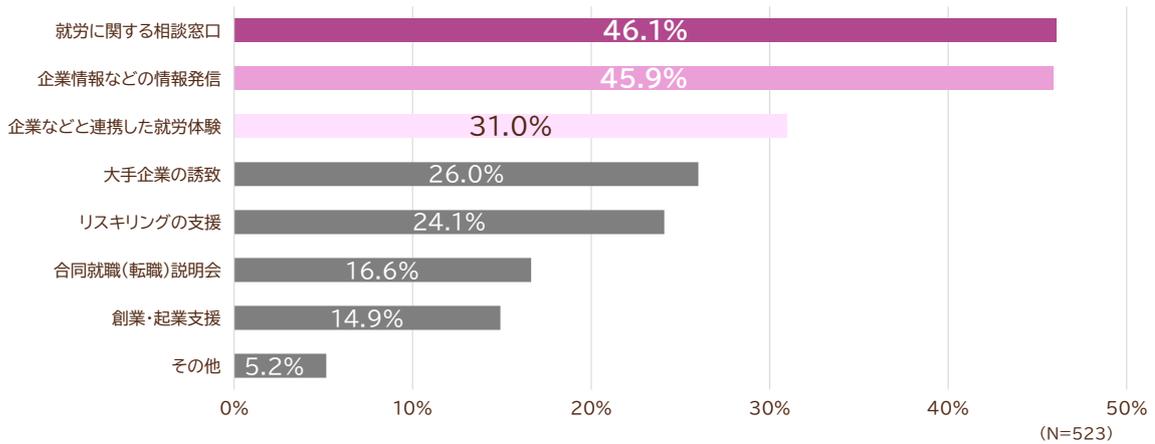
○町外で働いている(通学している)方で水巻町に住んでいる理由

(該当するものを全て選択)



○水巻町や近隣の市町で就職、転職するために必要だと考える行政サービス

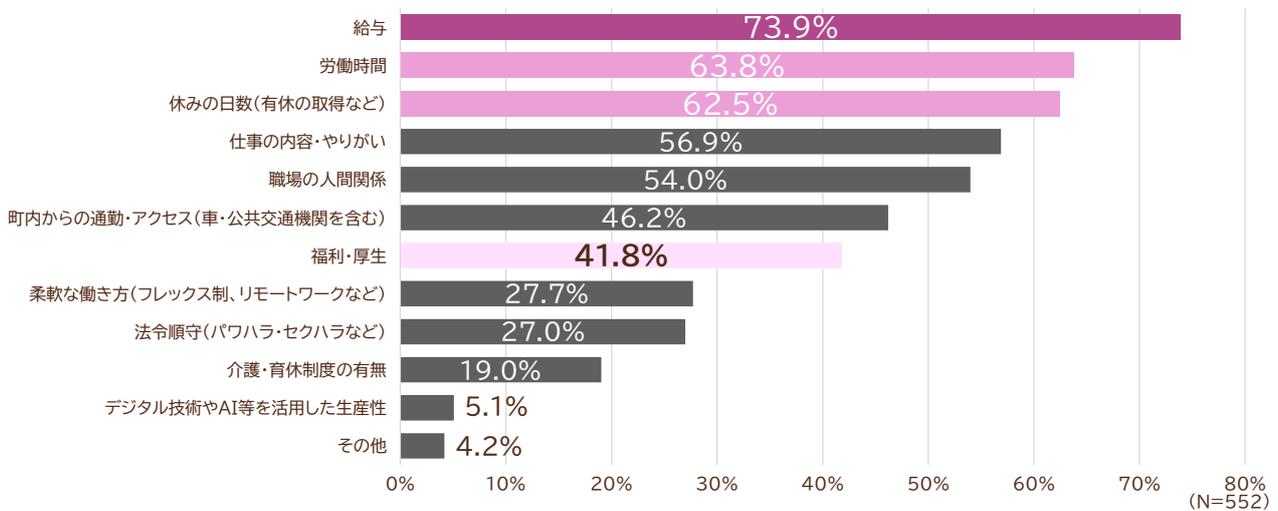
(該当するものを全て選択)



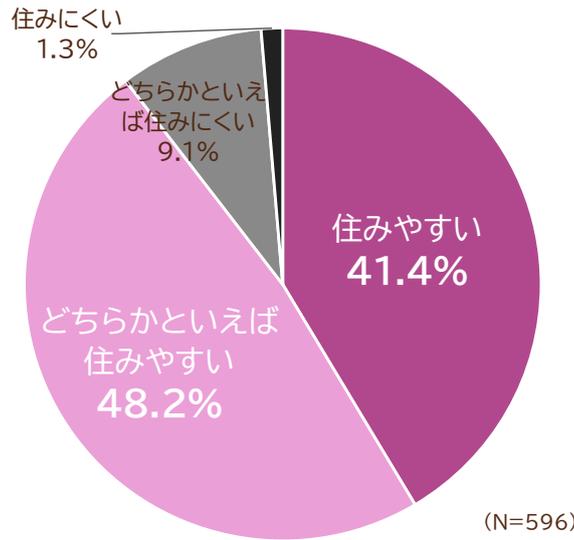
○新たに就職する、もしくは転職する場合、仕事を選択する上で重視する点

(該当するものを全て選択)

	給与	休みの日数(有休の取得など)	労働時間	町内からの通勤・アクセス(車・公共交通機関を含む)	職場の人間関係	仕事の内容・やりがい	福利・厚生	介護・育休制度の有無	法令順守(パワハラ・セクハラなど)	デジタル技術やAI等を活用した生産性	柔軟な働き方(フレックス制、リモートワークなど)	その他	
全体(N=552)	73.9%	62.5%	63.8%	46.2%	54.0%	56.9%	41.8%	19.0%	27.0%	5.1%	27.7%	4.2%	
性別	男性(N=200)	73.0%	56.5%	61.0%	40.5%	46.5%	59.0%	34.5%	14.0%	26.0%	6.0%	23.0%	2.5%
	女性(N=332)	75.6%	66.3%	66.3%	50.6%	59.0%	55.7%	46.7%	21.7%	28.3%	4.5%	30.7%	4.8%
	回答しない(N=8)	87.5%	100.0%	62.5%	37.5%	75.0%	87.5%	50.0%	37.5%	37.5%	0.0%	50.0%	0.0%
年代	10代(N=46)	87.0%	71.7%	45.7%	28.3%	63.0%	71.7%	47.8%	26.1%	37.0%	6.5%	23.9%	2.2%
	20代(N=60)	86.7%	83.3%	75.0%	36.7%	61.7%	55.0%	58.3%	30.0%	28.3%	6.7%	41.7%	0.0%
	30代(N=85)	87.1%	78.8%	69.4%	51.8%	58.8%	47.1%	61.2%	22.4%	38.8%	2.4%	32.9%	0.0%
	40代(N=95)	85.3%	74.7%	77.9%	56.8%	64.2%	64.2%	40.0%	16.8%	26.3%	6.3%	27.4%	1.1%
	50代(N=81)	85.2%	63.0%	66.7%	54.3%	61.7%	70.4%	44.4%	27.2%	40.7%	13.6%	29.6%	1.2%
	60代(N=111)	54.1%	48.6%	64.9%	47.7%	46.8%	52.3%	30.6%	10.8%	17.1%	0.9%	24.3%	6.3%
	70歳以上(N=67)	41.8%	23.9%	37.3%	31.3%	25.4%	41.8%	14.9%	9.0%	7.5%	1.5%	17.9%	17.9%

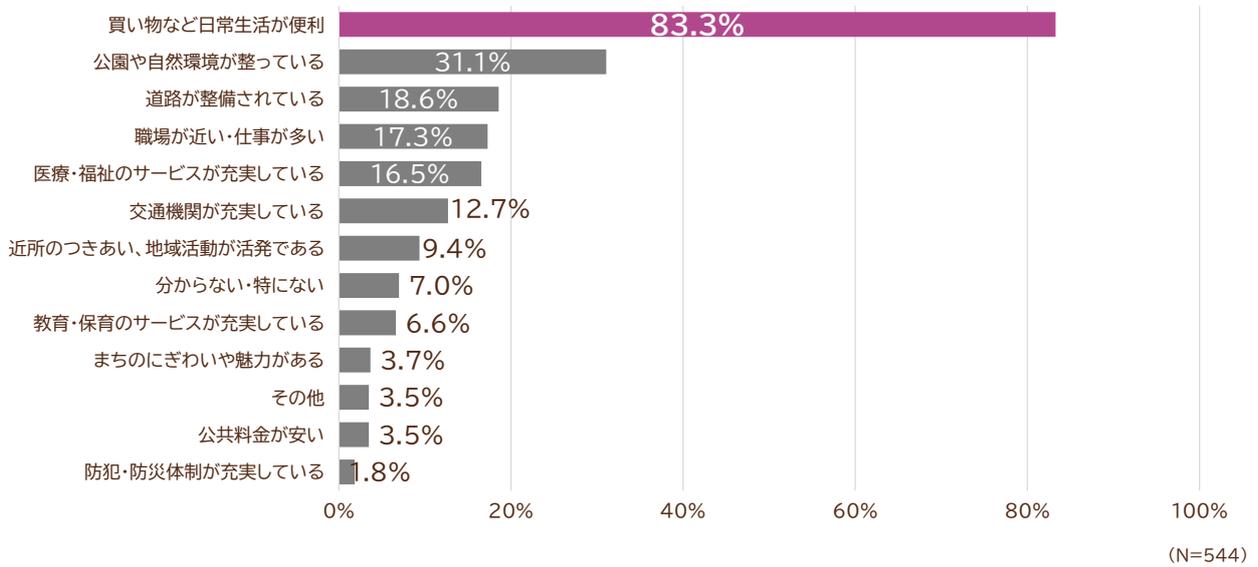


○水巻町の住みやすさ



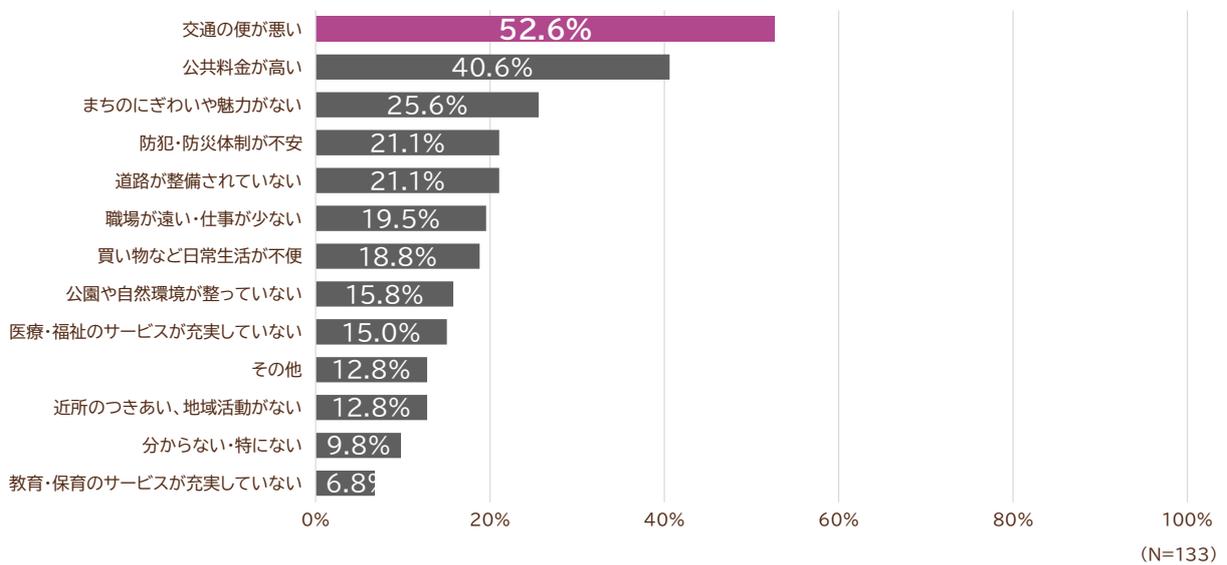
・住みやすいと感じる点

(該当するものを全て選択、水巻町が「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」と回答した方を対象)



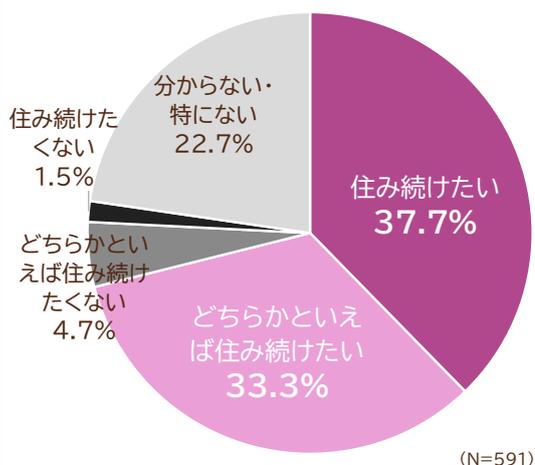
・住みにくいとを感じる点

(該当するものを全て選択、水巻町が「どちらかといえば住みにくい」、「住みにくい」と回答した方を対象)

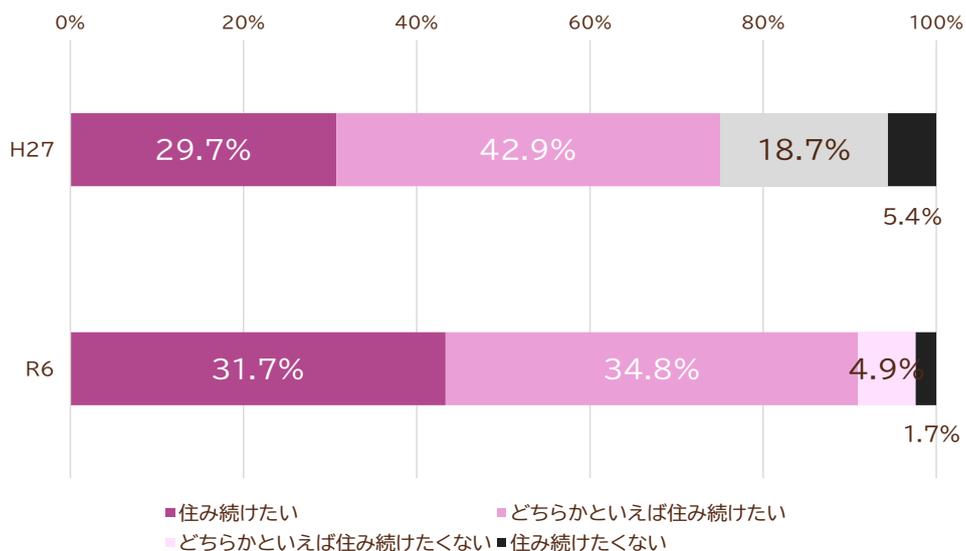


○今後の居住意向

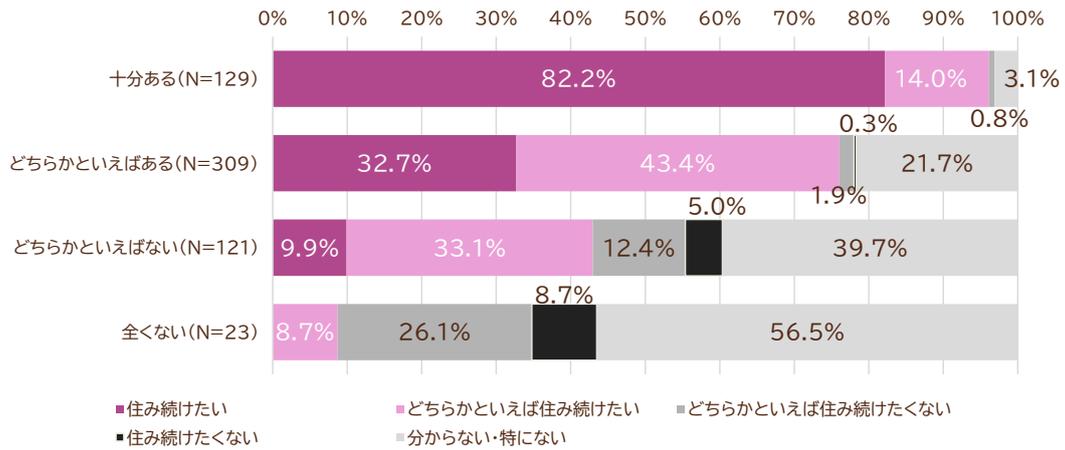
		住み続けたい	どちらかといえば住み続けたい	どちらかといえば住み続けたくない	住み続けたくない	分からない・特にな
全体(N=591)		37.7%	33.3%	4.7%	1.5%	22.7%
性別	男性(N=214)	42.5%	30.8%	4.2%	1.4%	21.0%
	女性(N=356)	34.8%	35.1%	5.1%	1.4%	23.6%
	回答しない(N=8)	12.5%	37.5%	12.5%	12.5%	25.0%
年代	10代(N=48)	29.2%	25.0%	0.0%	6.3%	39.6%
	20代(N=60)	33.3%	30.0%	11.7%	1.7%	23.3%
	30代(N=85)	37.6%	40.0%	4.7%	0.0%	17.6%
	40代(N=94)	26.6%	38.3%	3.2%	1.1%	30.9%
	50代(N=84)	40.5%	33.3%	4.8%	1.2%	20.2%
	60代(N=118)	39.8%	36.4%	4.2%	1.7%	17.8%
	70歳以上(N=94)	50.0%	25.5%	4.3%	1.1%	19.1%



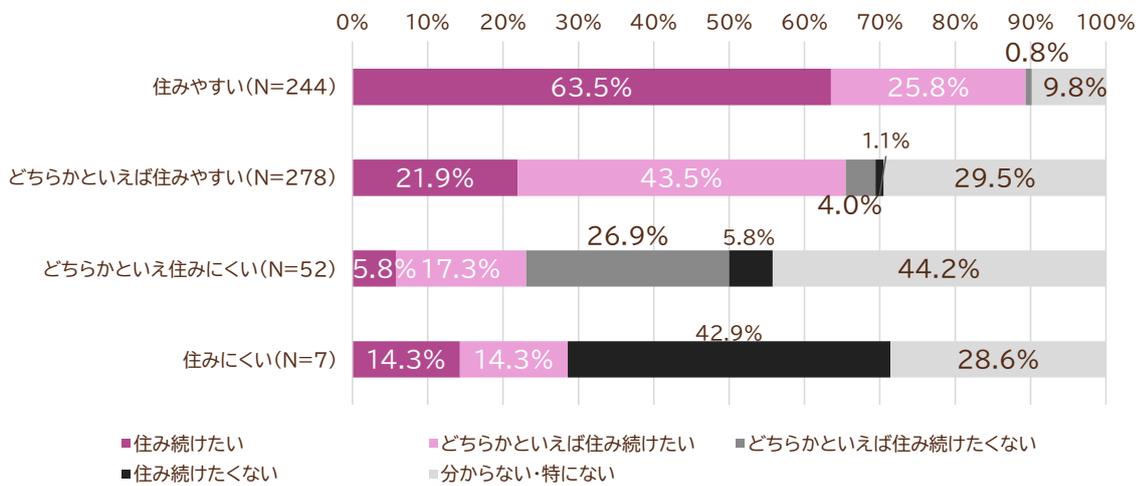
【過年度調査との比較】



【水巻町に対する誇りや愛着の有無とのクロス集計】

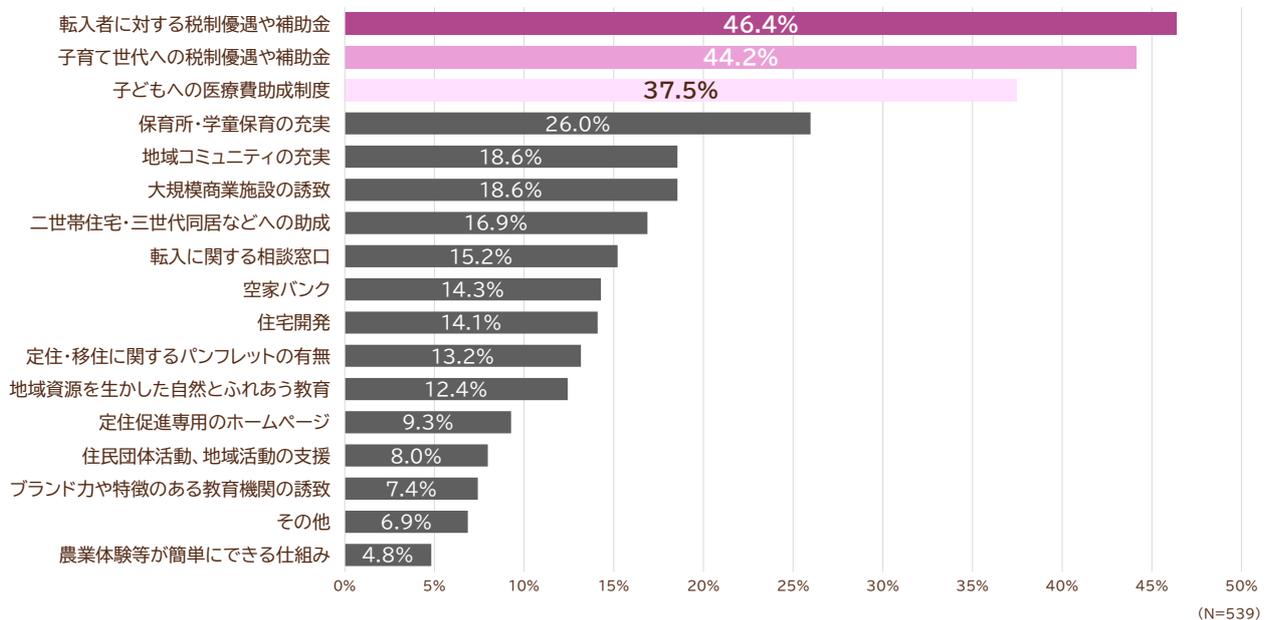


【水巻町の住みやすさとのクロス集計】



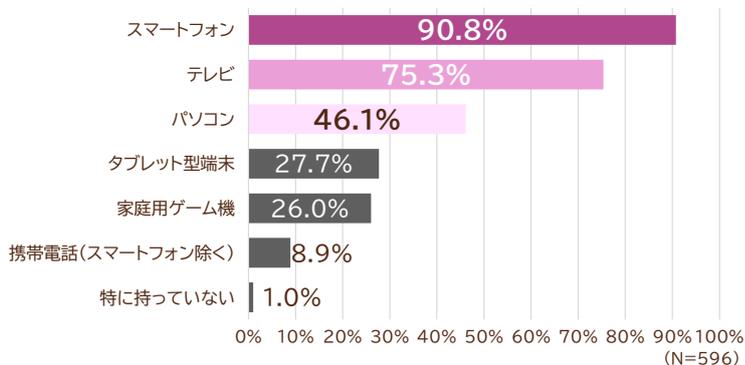
○住む場所の決定や住宅購入の際にきっかけになり得る行政サービス

(該当するものを最大2つまで選択)

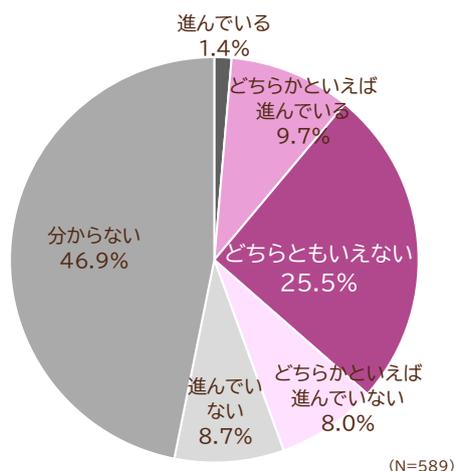


○保有している情報通信機器

(該当するものを全て選択)



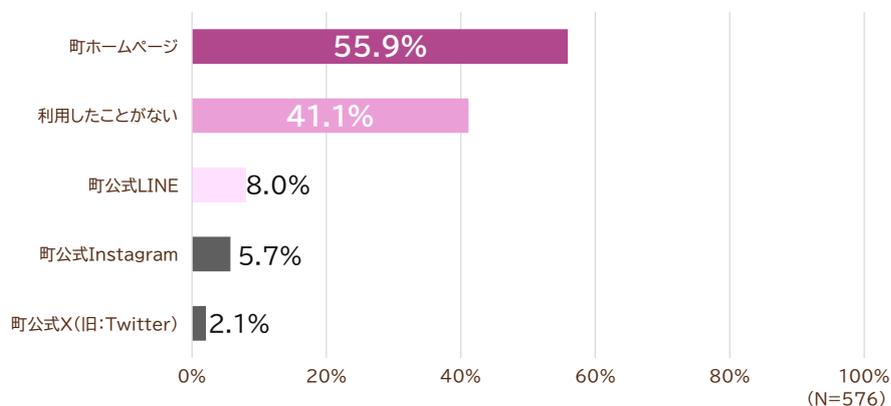
○水巻町のデジタル化や DX の進捗状況



○利用したことがあるデジタル行政サービス

(該当するものを全て選択)

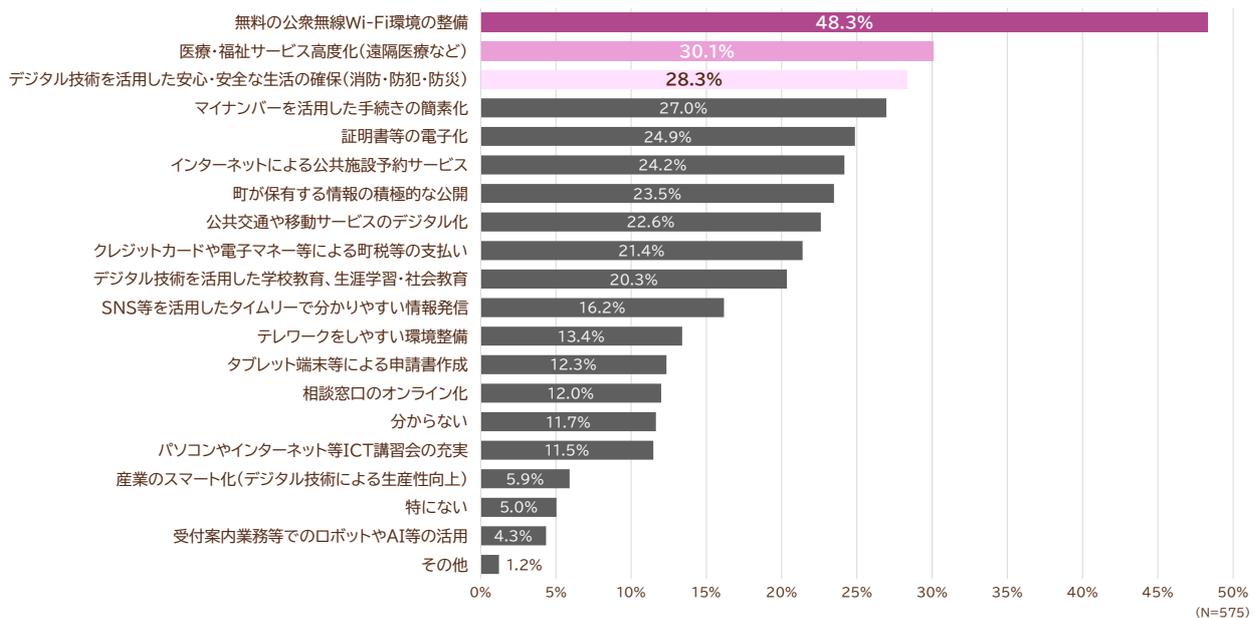
		町ホームページ	町公式LINE	町公式X(旧:Twitter)	町公式Instagram	利用したことがない
全体(N=576)		55.9%	8.0%	2.1%	5.7%	41.1%
性別	男性(N=210)	51.9%	5.7%	0.5%	4.3%	46.2%
	女性(N=345)	57.7%	9.3%	3.2%	6.7%	38.6%
	回答しない(N=8)	87.5%	0.0%	0.0%	0.0%	12.5%
年代	10代(N=48)	27.1%	8.3%	2.1%	6.3%	62.5%
	20代(N=59)	45.8%	5.1%	5.1%	10.2%	49.2%
	30代(N=84)	70.2%	10.7%	3.6%	8.3%	25.0%
	40代(N=93)	76.3%	15.1%	3.2%	11.8%	20.4%
	50代(N=80)	62.5%	6.3%	1.3%	1.3%	37.5%
	60代(N=114)	57.0%	5.3%	0.9%	1.8%	41.2%
	70歳以上(N=90)	34.4%	3.3%	0.0%	2.2%	65.6%



○デジタル化やDXが進むことで期待するサービス

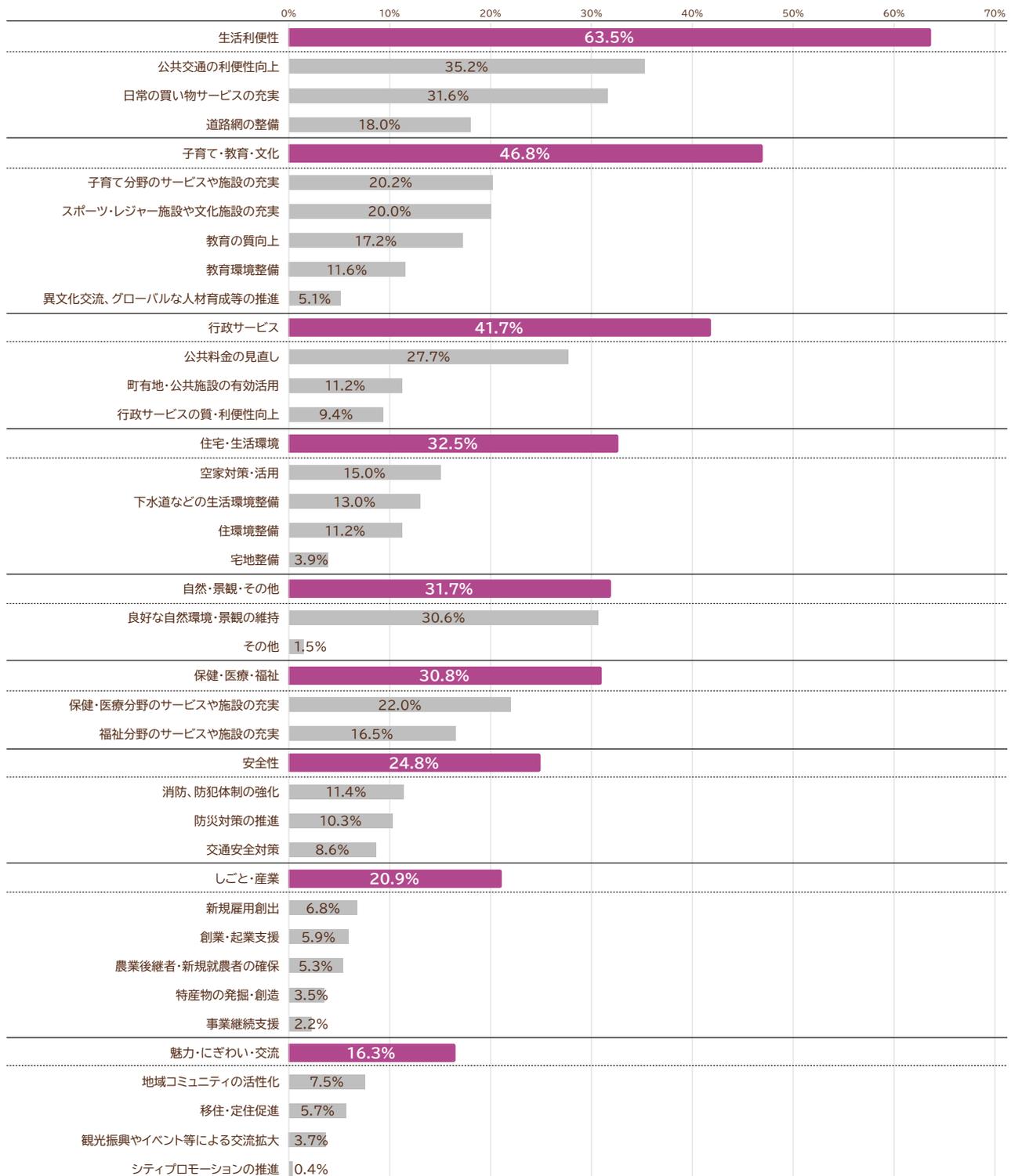
	無料の公衆無線Wi-Fi環境の整備	デジタル技術を活用した安心・安全な生活の確保(消防・防犯・防災)	デジタル技術を活用した学校教育・生涯学習・社会教育	医療・福祉サービス高度化(遠隔医療など)	公共交通や移動サービスのデジタル化	産業のスマート化(デジタル技術による生産性向上)	テレワークをしやすい環境整備	町が保有する情報の積極的な公開	SNS等を活用したタイムリーで分かりやすい情報発信	インターネットによる公共施設予約サービス	
全体(N=575)	48.3%	28.3%	20.3%	30.1%	22.6%	5.9%	13.4%	23.5%	16.2%	24.2%	
性別	男性(N=212)	49.1%	26.4%	21.7%	31.6%	22.2%	7.1%	14.2%	26.4%	12.7%	20.8%
	女性(N=342)	48.0%	30.4%	19.0%	28.9%	23.1%	5.0%	12.3%	21.6%	18.4%	26.6%
	回答しない(N=8)	37.5%	37.5%	37.5%	37.5%	12.5%	12.5%	50.0%	25.0%	25.0%	25.0%
年代	10代(N=47)	48.9%	29.8%	31.9%	21.3%	21.3%	21.3%	25.5%	19.1%	25.5%	29.8%
	20代(N=60)	41.7%	25.0%	30.0%	26.7%	21.7%	8.3%	16.7%	23.3%	18.3%	31.7%
	30代(N=81)	48.1%	30.9%	25.9%	32.1%	18.5%	3.7%	18.5%	29.6%	22.2%	35.8%
	40代(N=91)	57.1%	37.4%	25.3%	30.8%	20.9%	5.5%	16.5%	17.6%	24.2%	29.7%
	50代(N=83)	49.4%	34.9%	20.5%	42.2%	26.5%	9.6%	14.5%	26.5%	19.3%	25.3%
	60代(N=113)	58.4%	29.2%	11.5%	28.3%	28.3%	1.8%	6.2%	32.7%	8.0%	18.6%
	70歳以上(N=92)	31.5%	13.0%	8.7%	26.1%	17.4%	1.1%	5.4%	13.0%	2.2%	8.7%

	証明書等の電子化	クレジットカードや電子マネー等による町税等の支払い	マイナンバーを活用した手続きの簡素化	タブレット端末等による申請書作成	受付案内業務等でのロボットやAI等の活用	相談窓口のオンライン化	パソコンやインターネット等ICT講習会の充実	その他	特にない	分からない	
全体(N=575)	24.9%	21.4%	27.0%	12.3%	4.3%	12.0%	11.5%	1.2%	5.0%	11.7%	
性別	男性(N=212)	22.6%	16.5%	31.6%	10.4%	5.2%	13.2%	10.4%	0.5%	5.2%	13.2%
	女性(N=342)	26.0%	25.4%	24.3%	13.5%	3.8%	11.4%	12.0%	1.5%	5.0%	10.5%
	回答しない(N=8)	25.0%	12.5%	12.5%	12.5%	12.5%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	12.5%
年代	10代(N=47)	21.3%	19.1%	17.0%	21.3%	17.0%	21.3%	19.1%	0.0%	10.6%	17.0%
	20代(N=60)	30.0%	36.7%	28.3%	8.3%	3.3%	11.7%	6.7%	0.0%	1.7%	10.0%
	30代(N=81)	28.4%	33.3%	24.7%	14.8%	4.9%	14.8%	3.7%	0.0%	3.7%	7.4%
	40代(N=91)	26.4%	29.7%	33.0%	12.1%	5.5%	13.2%	4.4%	1.1%	1.1%	4.4%
	50代(N=83)	37.3%	27.7%	31.3%	21.7%	3.6%	13.3%	20.5%	1.2%	8.4%	7.2%
	60代(N=113)	19.5%	10.6%	30.1%	10.6%	0.9%	8.8%	15.9%	1.8%	4.4%	10.6%
	70歳以上(N=92)	14.1%	3.3%	21.7%	3.3%	2.2%	7.6%	12.0%	2.2%	7.6%	26.1%



○水巻町に優先して取り組んで欲しいと思うこと

(該当するものを最大5つまで選択)



(N=545)

～水巻町のデジタル化や DX に関するご意見・ご要望～

デジタルデバインド(情報格差)への対応

- デジタル化を進めるにあたり、手続きが窓口申請より煩雑になるのは、本末転倒。
- デジタル化・DX に抵抗のある高齢者への丁寧な対応が必要。
- “高齢者など色んな人が使いやすい”が大前提のため、 unnecessary デジタル化を見極めてほしい。
- 高齢者はデジタル化やDX等の仕組み自体が良く分からない。
- 利用方法(アクセスの仕方など)の情報も併せて提供してほしい。

行政サービスのデジタル化

- 回覧板や町内放送、広報のデジタル化をしてほしい。
- 給付金や補助金が自動的に通知される、もしくは、振り込まれるようにしてほしい。
- 町ホームページ上で、文化祭や成人式等を観賞できたら良い。
- 「耳でできハザードマップ」、「声の広報誌」に対応してもらいたい。
- インターネットを利用した土日の申請書等の発行受付

広報・PR 等

- ホームページ以外のSNSの存在を広報・周知してほしい。
- 水巻町のデジタル行政サービスの周知徹底。

ネットワーク

- 無料のWi-Fi環境を整備してほしい。
- テレワークが進むに伴い、光回線や騒音対策を整備してほしい。

教育 DX

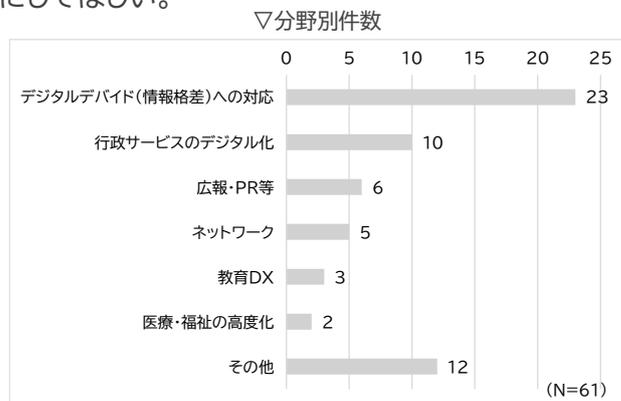
- 小、中学校でのデジタル化が遅いと感じる。
- 小、中学校でのデジタル化(オンライン授業など)を進めてほしい。

医療・福祉の高度化

- 高齢者への支援を増やしてほしい。
- 子育てに関して、夜間に受診できる病院などを調べられるアプリがほしい。

その他

- アナログとデジタル両方のいいとこどりで進めてほしい。
- デジタル化が進んでる自治体や他国の方法を参考にしてほしい。
- 何もかもが機械化するのはとても悲しい。
- このままのやり方でいいと思う。



～水巻町が将来どのような町になってほしいか～

魅力・にぎわい・交流

- 若い人が楽しめる空間の提供。
- 商店街の活性化。
- 観光客が来るような町にしてほしい。
- 町が元気で、人が活気ある町にしてほしい。
- 水巻駅をリニューアル・再整備してほしい。

生活利便性

- 公共交通機関の利便性向上。
- 買い物の利便性向上。
- 大型商業施設の誘致。

自然・景観

- 電線の地中化。
- 環境整備を継続的に行い、キレイで過ごしやすい町になってほしい。
- 公園や緑が多く散歩や運動のしやすい環境の充実。

住宅・生活環境

- ユニバーサルデザインに配慮した、住みよい環境が整備された町。
- どの世代も住みやすい福祉と環境が充実した町になってほしい。
- ペットの飼い主へマナーについて注意喚起してほしい。

保健・医療・福祉

- 医療費の負担軽減。
- 高齢者や障がい者が安心して住める町にしてほしい。
- 高齢者の健康寿命を延ばす取り組みをしてほしい。

子育て・教育・文化

- 子育て世代の移住先となる町にしてほしい。
- 子育て支援や医療体制の充実。
- 子どもが安心して暮らせる町にしてほしい。
- 子どもたちが心身共に健やかに育つ環境を整えてほしい。
- 教育のレベルアップ。

安心・安全

- 安全で治安のよい町。
- 災害に強い町。
- 運転者へのマナーや標識に関する指導、学校向け交通安全教室の実施。

行政サービス

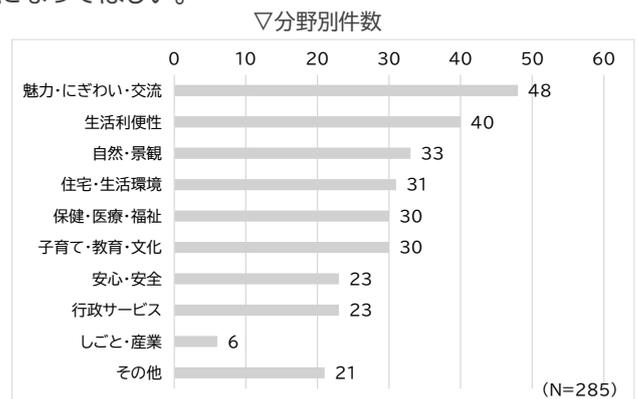
- 高齢者世帯、子育て世帯、単身世帯が平等に支援を受けられるようにしてほしい。
- 図書館やプール等の公共施設の設備充実、リニューアルなど。
- 公共料金の値下げ。

しごと・産業

- 専門的な店(本屋、洋服店、カフェなど)を多く整備してほしい。
- 障がい者雇用、継続した雇用のシステムの整備。
- 外国人でもたくさん就職機会のある町にしてほしい。

その他

- 北九州市・遠賀郡 4 町と合併して、地域の活性化などを進めてほしい。
- 人口流出などの課題の対処法を考え、実施できる町になってほしい。
- 経済的にも心にもゆとりを持てる生活ができる町。
- これからの若い世代が住みたいと思う町。
- 時代が変わっても、現状と同じ町であってほしい。



～その他、水巻町全般に関するご意見・ご要望～

行政サービス

- ゴミ袋の値段や水道代が高い。
- 税金(住民税など)が高すぎる。
- 結婚した人にお祝い金や支援金があればよい。

生活利便性

- 商業施設を増やしてほしい。
- 金融機関(ATM 含む)が少なく不便。
- タクシーの台数やバスの本数が少なく移動が不便。
- 福祉バスを使いやすくしてほしい。
- 水巻駅の整備と有人化。

子育て・教育・文化

- 学生中心のボランティア活動の充実。
- 保育施設の充実と保育料の見直しや補助。
- 給食費を完全無償化にしてほしい。
- 乳幼児健診の待ち時間の短縮。
- 子育てに必要な道具(ランドセルやチャイルドシート)の貸し出しを行ってほしい。

安心・安全

- 歩道含む道路の工事・整備を進めてほしい。
- 雑草の除去、害虫駆除対策をしてほしい。
- 不審者情報が多いので、街灯や防犯カメラを設置してほしい。

保健・医療・福祉

- 公園に大人、老人も運動できる用具を設置してほしい。
- 小児専門の医療機関が少し少ないように感じる。

住宅・生活環境

- ゴミが散乱したり、川に流れたりしている。
- 野良猫の糞尿に困っている。
- 自衛隊の飛行機の音がうるさいので対策してほしい。

魅力・にぎわい・交流

- 地域のイベント(お祭り・花火大会など)を増やしてほしい。
- 町出身の有名人やスポーツ選手などの PR 大使を増やしてほしい。
- 水巻町の良さをもっとアピールしてほしい。

自然・景観

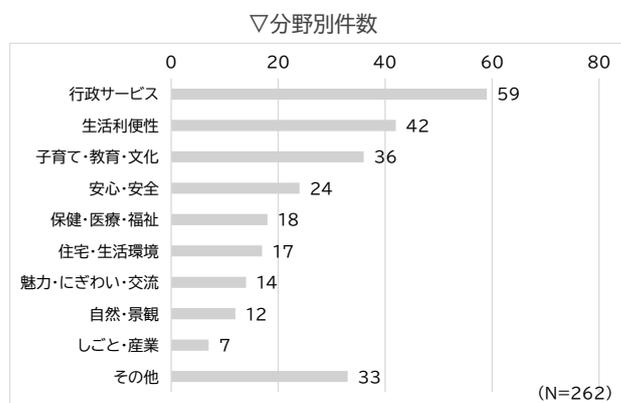
- ゴミ捨て場の景観整備をしてほしい。
- 歩道の雑草や街路樹が整備されていない。
- 田んぼがどんどん住宅化して自然の風景が無くなっていくのが残念。

しごと・産業

- 外国人、育児中の女性への就職支援の充実。
- 幅広い職業訓練コースを設け、補助してほしい。
- 農業の取り組みを行ってほしい。

その他

- ペットに関する施設(ドッグランなど)がほしい。
- 議員の数が多すぎる。
- 北九州市と合併してほしい。
- 人口が減少する中でも生き残る方策を考えるべき。



2) 事業者アンケート調査

(1) 調査概要

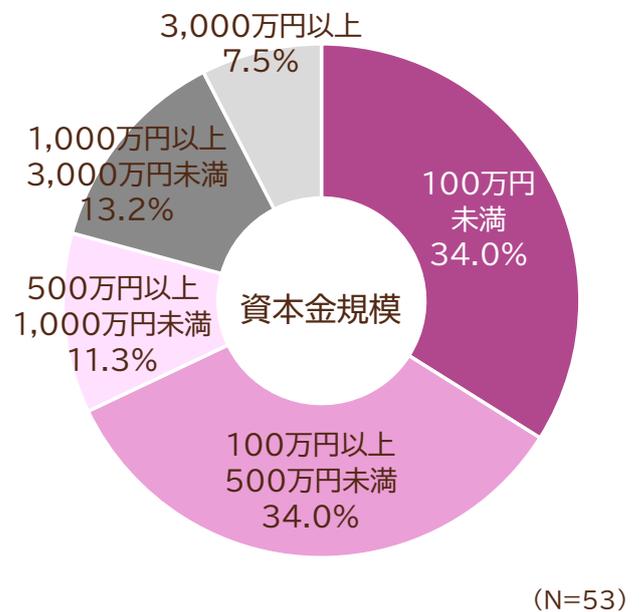
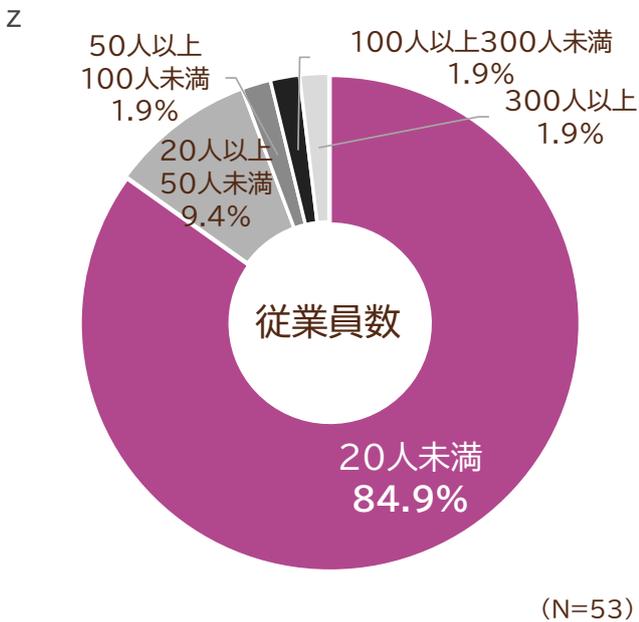
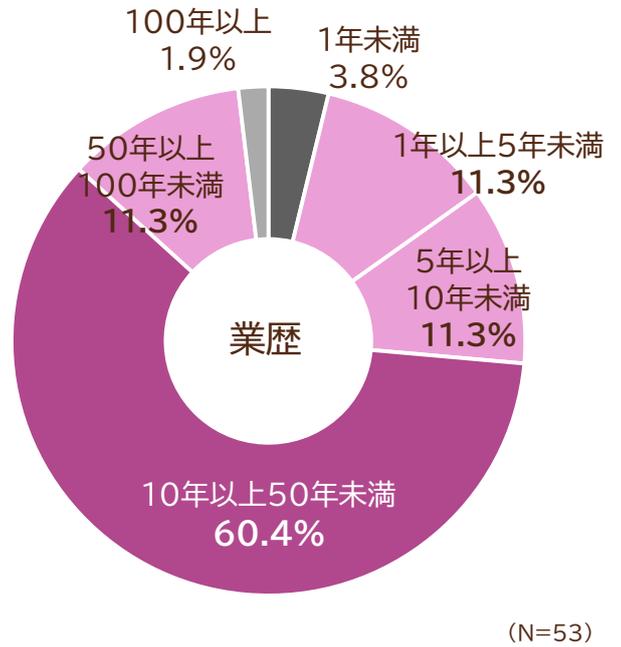
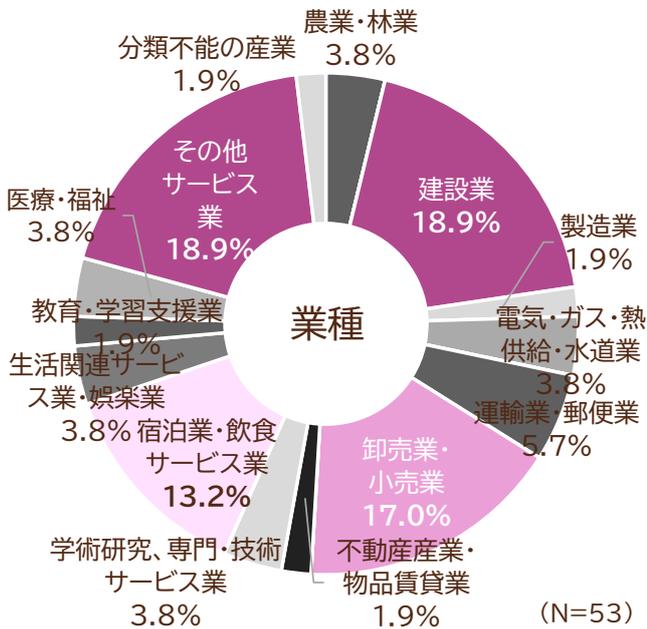
調査対象	水巻町商工会に加入している水巻町内にある 480 の企業・事業所・店舗等 ※令和 6 年 9 月 1 日時点
調査方法	案内用紙の送付、原則 web 回答
調査期間	令和 6 年 11 月 14 日(木)～令和 6 年 11 月 25 日(月)
回収数	53 サンプル(回収率 11.0%)

【調査結果の見方について】

- 小数点第 2 位を四捨五入している関係で、表やグラフ合計が 100%にならない場合があります。
- 表やグラフに記載の「N」はその設問のサンプル数(有効回答数)を示します。
- 一部の設問については、前の設問の回答等により、一部の方を対象としているため、全体のサンプル数と一致しません。
- 自由意見については、いただいたご意見・ご要望から一部を抜粋しており、掲載している文面については、意味を損なわない範囲で要約・修正を行っています。

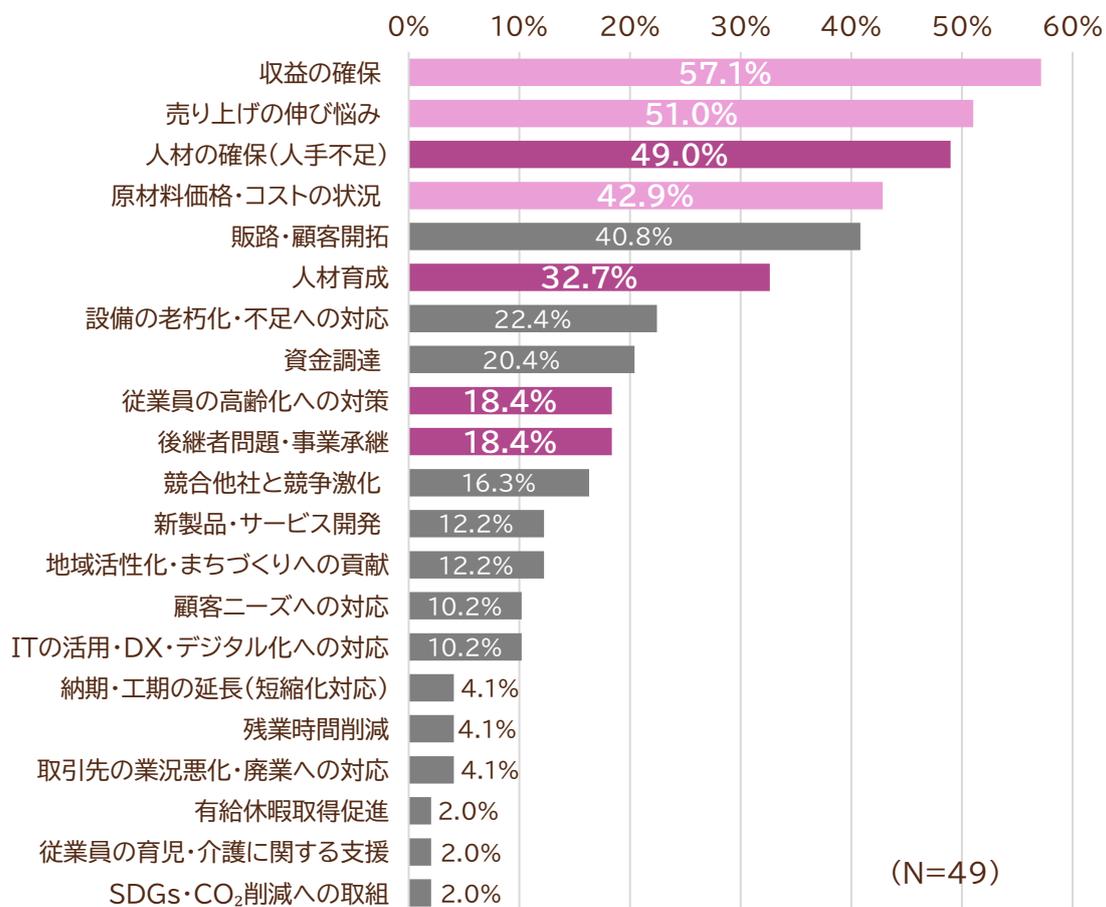
(2) 調査結果

○事業者概要



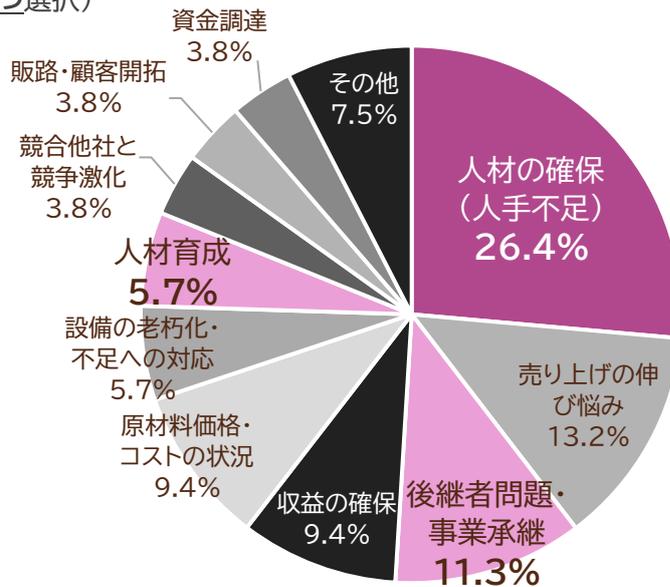
○事業者が抱える課題

(該当するものを全て選択)



○最も大きな課題

(該当するものを1つ選択)



～最も大きな課題とその理由～

(N=53)

人材の確保(人手不足)、人材育成、従業員の高齢化への対策

- 求人を出すのが、なかなか募集がない。
- 従業員の高齢化。
- 業界全体として低収益の状態であり、賃金水準も他業界より低いいため、若者が集まらない。求人をかけても、高齢の方しか集まらず、人材の確保ができない状況。
- 人材を確保できないため外部委託に頼っているが、人材＝資産として考えた時に、委託ではノウハウの蓄積や人材育成に繋がらない。
- 人員不足で人材育成が課題。
- 若者が定着しない。

売上げの伸び悩み

- 顧客数が減っており、販路の拡大が難しい。
- 仕入れ原価の高騰や、それに関わる物資の高騰、輸送費・ガソリン等の高騰により、商品価格を値上げしなければならなくなった。
- 人口減少に伴って集客が減少し、売上利益が他社競合と比較して、伸び率が少ない。

後継者問題・事業承継

- 事業を引継げる資格者を探し出す必要があり、探し出せても、引き継いでくれるとは限らない。
- 親から事業を引き継ぎ、自身も高齢化していくなかで、廃業か継続か悩んでいる。

収益の確保、原材料価格・コストの状況

- 売上げは横ばいで、物価・人件費・外注費が高騰しているため、利益が出にくい。
- 人件費やコスト高に対する価格転嫁が難しい。

設備の老朽化・不足への対応

- 経年劣化による建物の老朽化。
- 新しい機械を導入したいが、金額が高い。

競合他社と競争激化

- 他社との競争激化で仕事が激減して、窮地に立たされている。

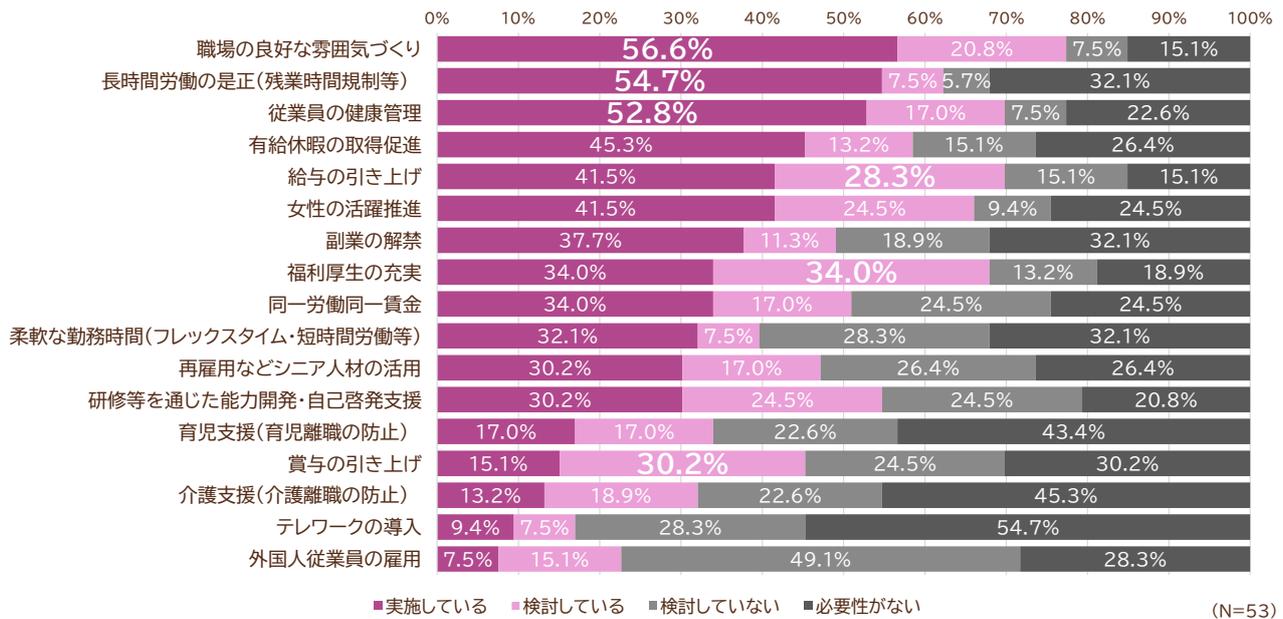
販路・顧客開拓

- 教育に対する関心が低く感じられる。学力向上が将来の町を担う大切な大人になるために価値があるという事を理解してほしい。学習塾などの費用を一部でも援助する補助金などがあれば、通いたいという子供たちの希望を叶えられる家庭も増えると思う。

顧客ニーズへの対応

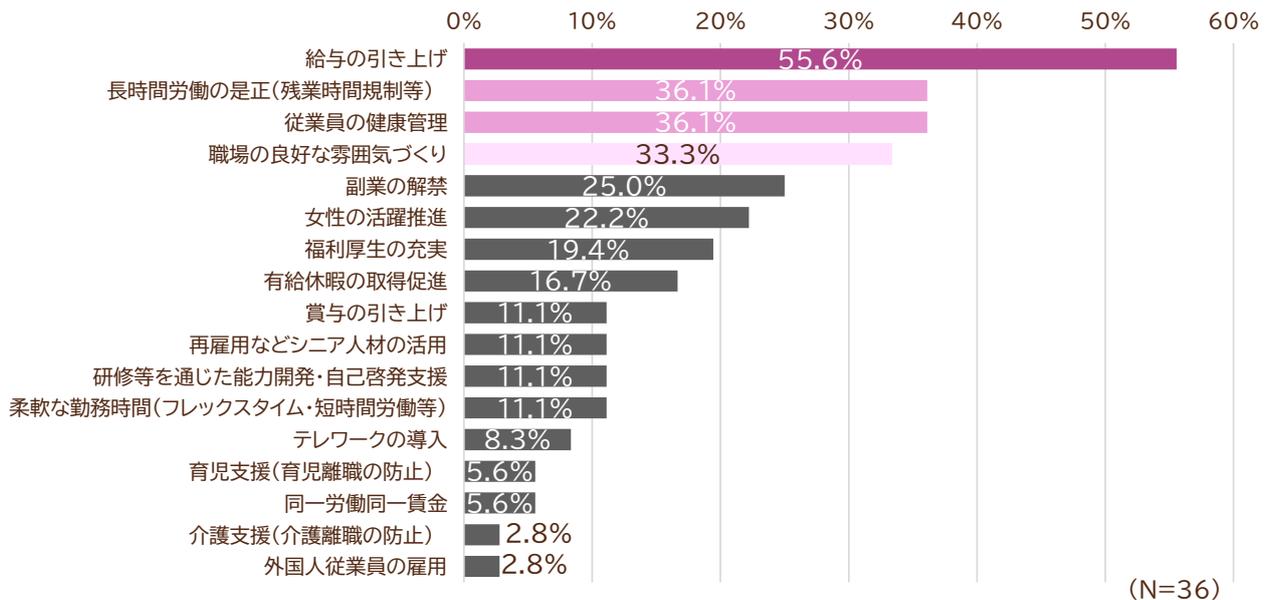
- 顧客ニーズの多様化に追いつけない。

○人材確保や労働環境改善のために実施している取組の実施状況



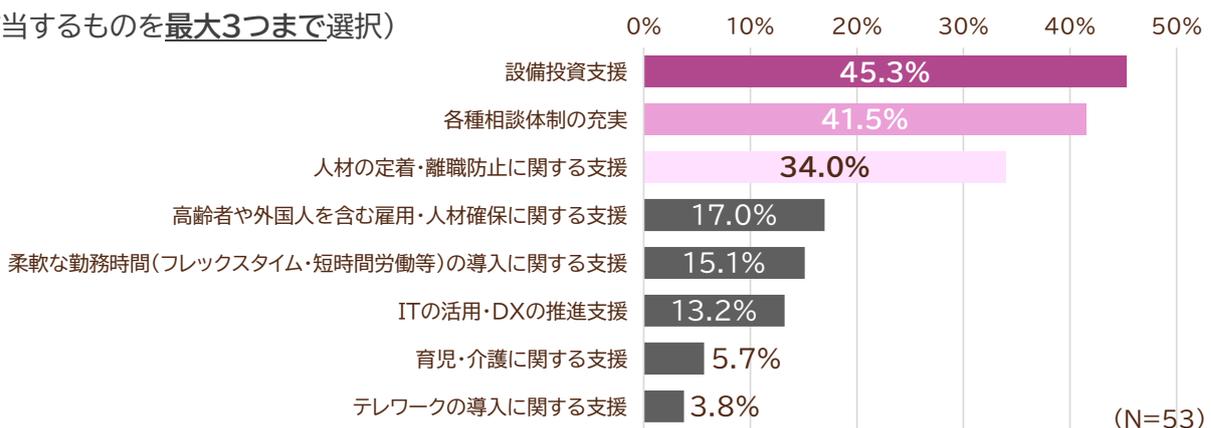
○特に力を入れている人材確保や労働環境改善のための取組

(該当するものを最大3つまで選択)

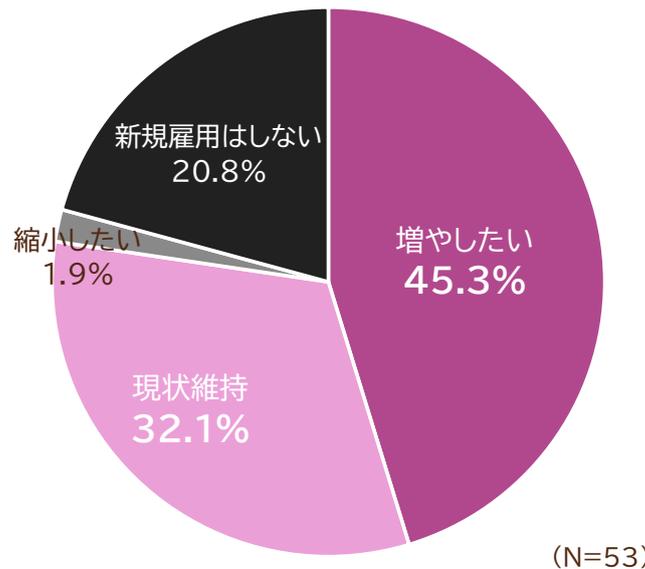


○人材確保や労働環境改善のために必要な支援

(該当するものを最大3つまで選択)



○今後の新規雇用に関する意向



～人材確保や労働環境改善のために実施している具体的な取組内容～

職場の良好な雰囲気づくり

- 社員研修に今後更に力を入れ、職員が心身の健康を保ちながら、働きやすさを実感出来る職場環境づくりに努める。
- 日々のコミュニケーションや月に1度の会議や個人面談で職場が働きやすく、快適になるよう努めている。

長時間労働の是正

- 個人事業なので、つい働き過ぎになってしまうため、労働時間を見直していこうと思う。

従業員の健康管理

- 健康促進手当を1人当たり6万円(年間)支給している。

有休休暇の取得促進

- 有給休暇を取りやすい環境を作り、子育て、介護、旅行等、リフレッシュする事により心身共に健康でいられるよう取り組んでいる。

給与・賞与の引き上げ

- 物価高に対応するよう、賃上げを推進している。
- 小規模事業者のため、高額な給与を支給できないのが実状であるが、昇給額を増やしていく方向で考えている。

女性の活躍推進

- 女性の視点を重視している。

副業の解禁

- ダブルワークを認めている。

福利厚生の実施

- 仕事で必要になりそうな免許、特別講習などの費用は会社が負担している。
- 福利厚生、健康管理の一環として、近隣のスーパー銭湯と提携して温泉、サウナ、ジムが無料で利用可能(勤務時間中の利用も推奨)。

同一労働同一賃金

- 外国人も日本人と同様の待遇にしている。

柔軟な勤務時間・テレワークなど

- 労働時間短縮、テレワークの実施。

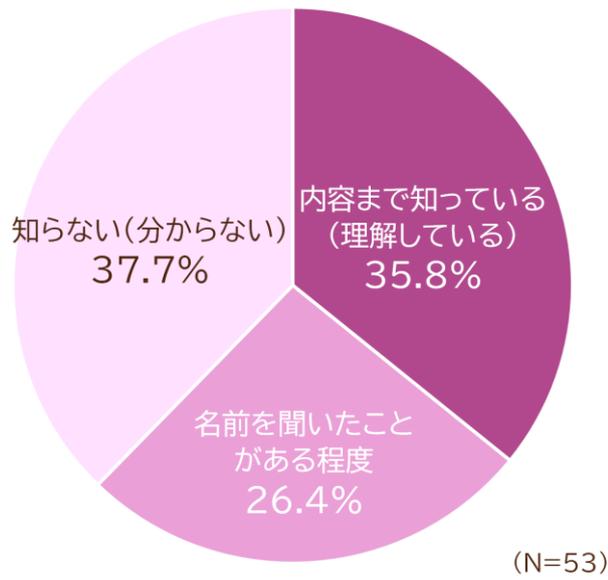
育児・介護支援

- 育児や介護の休暇を取りやすい環境づくり。

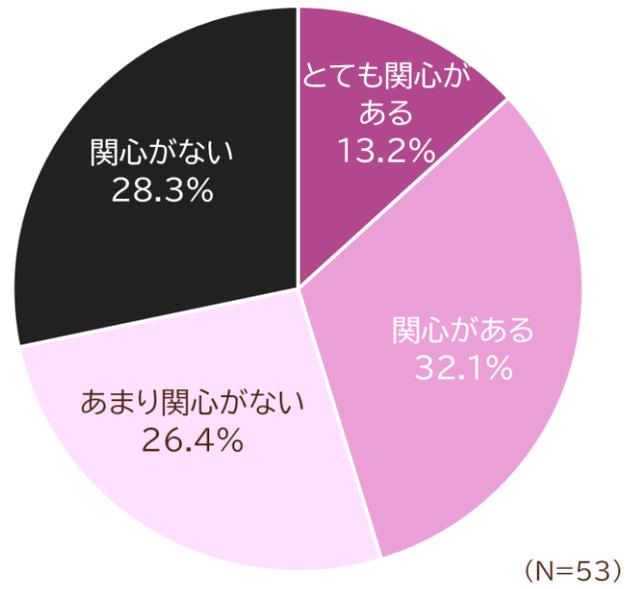
その他

- 地域経済の将来を見据えた経営戦略の確立。

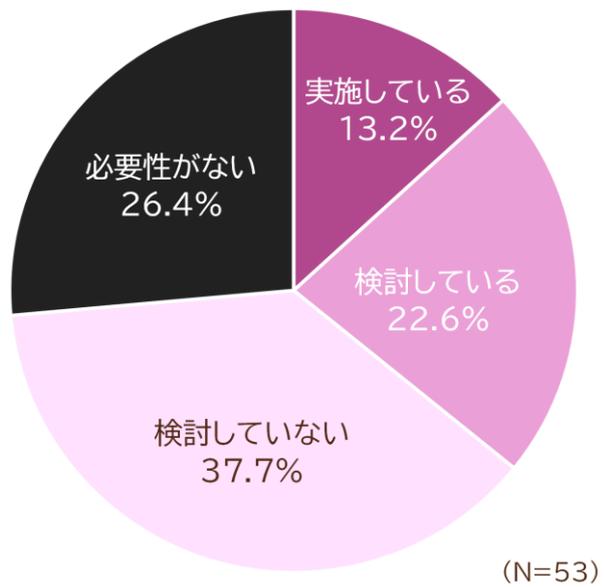
ODX に対する認識



ODX への関心

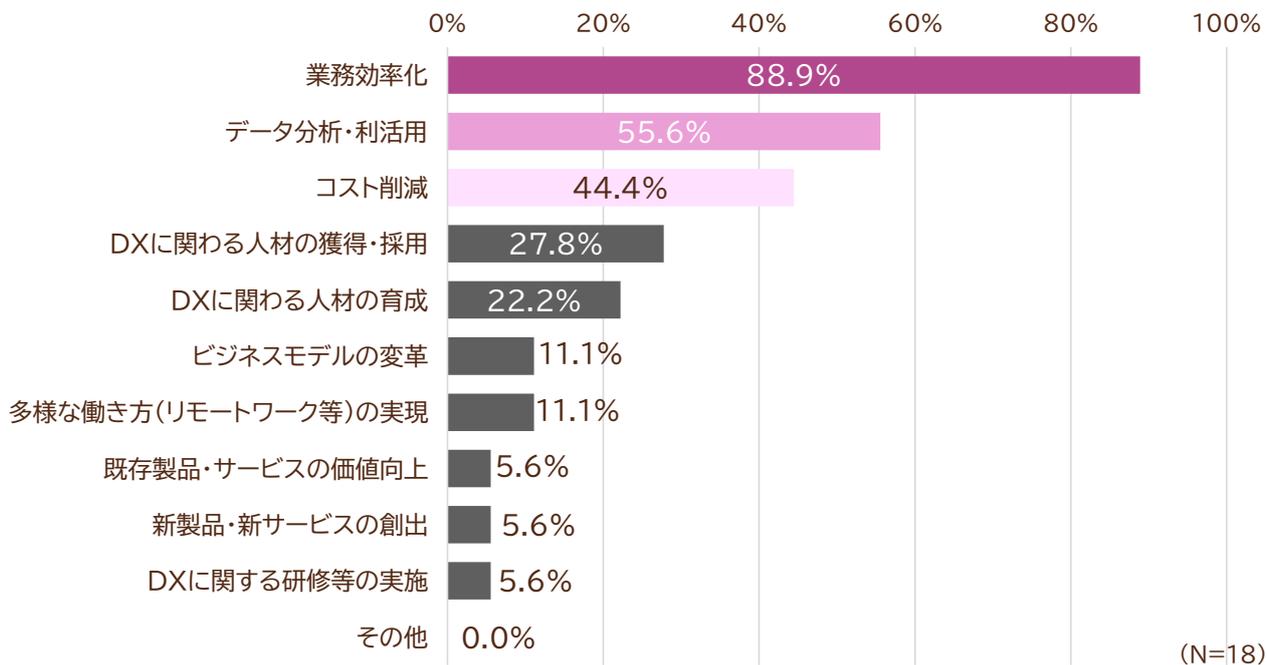


ODX の取組状況



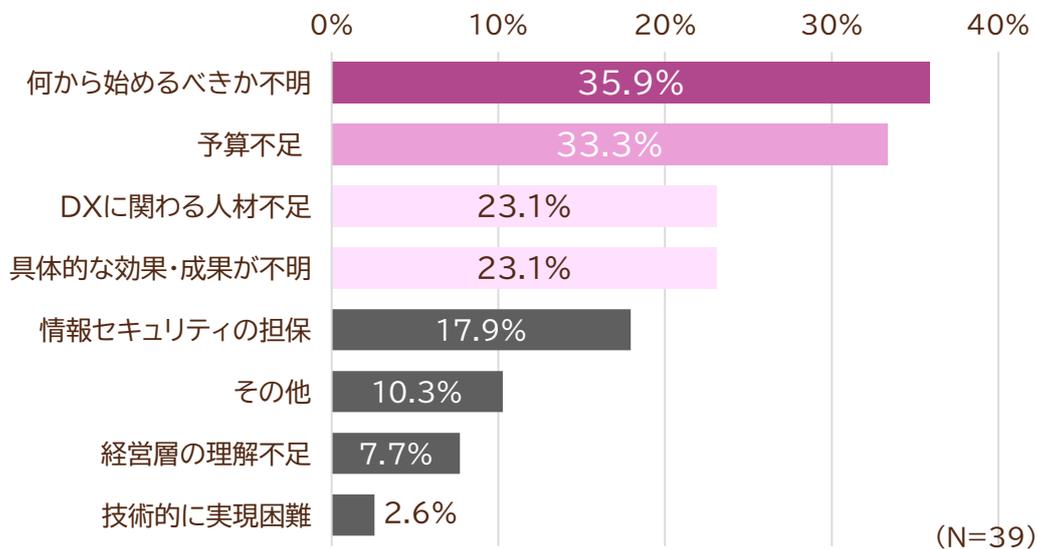
ODXに関する実施・検討内容

(該当するものを全て選択、DXの取組を「実施している」、「検討している」と回答した事業者を対象)



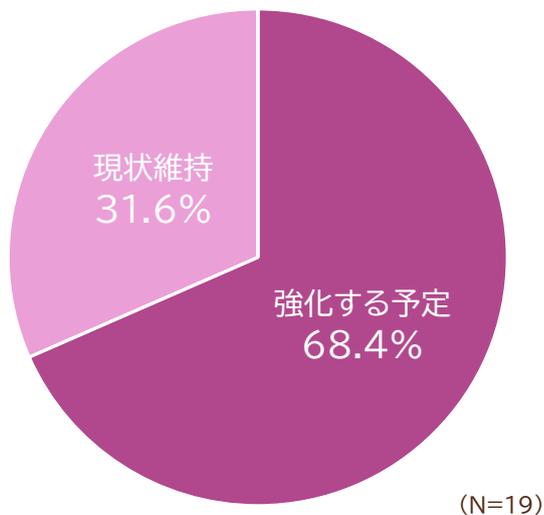
ODX 推進にあたっての問題点・課題

(該当するものを最大2つまで選択、DXの取組を「実施している」、「検討している」、「検討していない」と回答した事業者を対象)



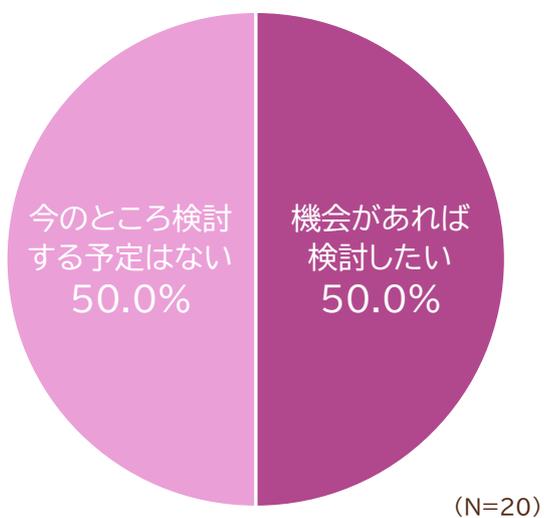
ODX の今後の取組意向

(DX の取組を「実施している」、「検討している」と回答した事業者を対象)

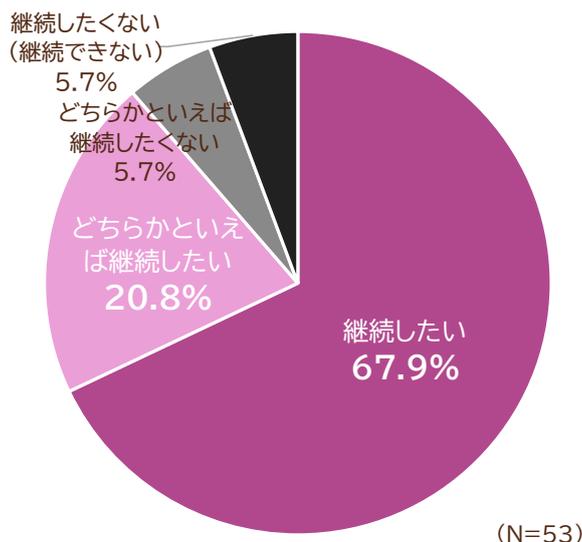


ODX の今後の検討意向

(DX の取組を「検討していない」と回答した事業者を対象)

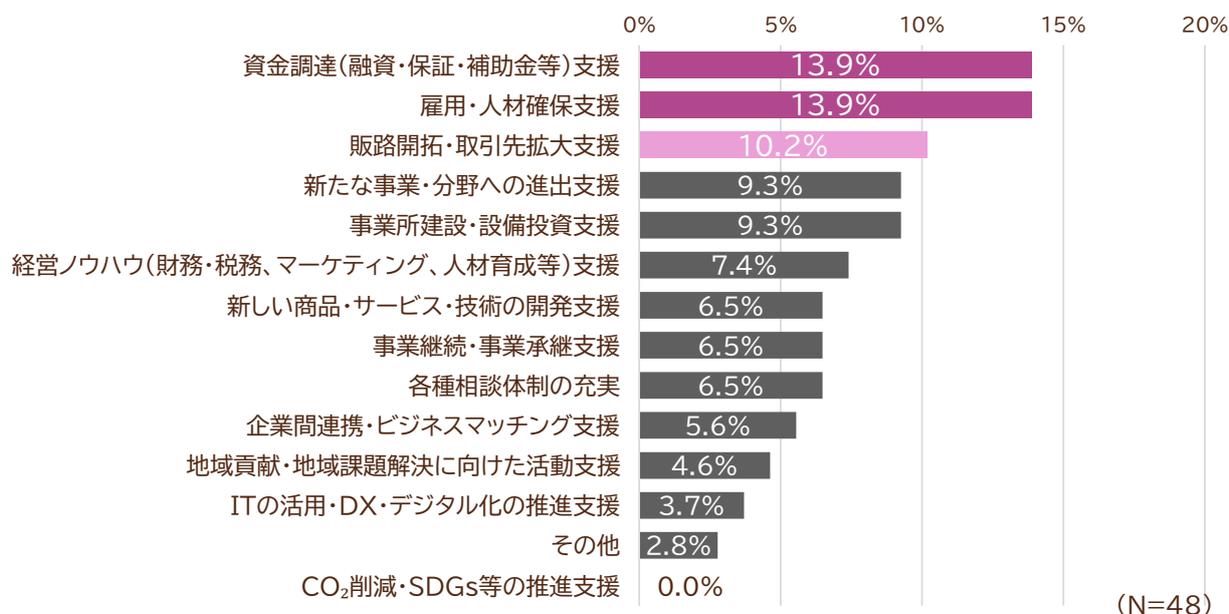


○水巻町での事業継続意向



○事業継続のために必要な支援

(該当するものを最大3つまで選択)



～水巻町へのご意見・ご要望～

- 経済は基本政策の根本的なものであるため、経済政策や施策を行う専門の課の設置を望む。
- 町の運営する貸しテナントを増やして欲しい。例えば、駅併設の施設等。
- 吉田の町営団地跡地を住宅地にして、若い世代の方たちが住めば活気ある町になると思う。子育てしやすい水巻町なので、若い世帯が増えていいと思う。
- 求人について強化したいが、町としての取組みの現状を教えてください。
- 交通の便が悪く雇用に限界がある。
- 今年は、近隣の住民からの求人もあり、水巻町の働き方の意識が前向きかと感じている。また、中年層の働きたい人が多々いること分かった。ただし、中年層は子ども、親の介護、家庭等の事情で働く時間等が限定的になる傾向があるため、中年層に対する求人並びに働きやすい環境や法整備をしていただきたい。
- 経理に関する教育、指導会。DXに関して PC、ネットのトラブル等に関するプロのサポート。

資料2. 第2期水巻町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証結果

1) 施策の検証

施策No.	施策タイトル	総括	解決された課題、効果
1-1	待機児童対策	A	・3歳未満児についての定員を確保するため、既存の施設の整備や新規事業者の小規模保育事業所の開設により、令和4年度から4月1日時点の待機児童の解消を達成することができた。
1-2	継続保育の対象年齢の撤廃	S	・令和4年度より育児休業中の上の子の継続保育について、年齢制限を撤廃したことで、子育てをしやすい環境を整えることができた。
1-3	就学に向けての巡回相談事業の実施 (5歳っ子すくすく相談)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校入学前の保護者のお悩み相談を実施。 ・気になる幼児の状況を関係部署で共有できた。 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談により、療育相談が必要な幼児への対応ができ、就学前に学校教育係とも情報共有を図ることができた。 ・また、巡回相談を実施することで、幼稚園、保育所等との連携強化も図ることができている。
1-4	放課後児童クラブ 延長保育の開始	A	・保護者からの要望が一定程度は実現した。
1-5	児童生徒の学力向上	A	・学力自体は数値化できるものではないが、講師の不足が問題となる中、多くの先生に力を貸していただき、配置が維持できている。
1-6	電子黒板の増設	A	・各種教材をディスプレイに映し、児童生徒にわかりやすい授業を実施している。
1-6-2	ICTを活用した授業の推進 【R4年度～施策追加】		<ul style="list-style-type: none"> ・ドリルソフトの使用による反復学習。 ・学習支援ソフトによる学び合いの実施。 ・紙の削減
1-7	不登校の未然防止	B	・児童生徒、保護者、関係機関との連携強化。

※第2期水巻町まち・ひと・しごとの創生総合戦略の検証結果については、
資料作成時点の内容となります。

今後対応していくべき課題	
積み残された課題	新たに発生した課題
<ul style="list-style-type: none"> ・現在の定員では4月1日時点での待機児童は解消されているが、各施設の定員数には限りがあるため、年度途中の保育ニーズに対応することが困難になりつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・共働き世帯の増加等による保育ニーズがさらに高まっており、申込数自体が増加している。
<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度より育児休業中の上の子の継続保育について、年齢制限を撤廃したため、積み残された課題はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度より育児休業中の上の子の継続保育について、年齢制限を撤廃したため、現時点では新たに発生した課題はない。
<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度から概ね順調に実施できたが、来年度以降の5歳児健診の実施に向け、現在検討中であり、巡回相談事業を継続するかどうかは未定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床心理士の確保が困難になり、事業の見直しが必要。 ・国の制度として5歳児健診が開始予定であり、情報の共有方法等について検討が必要。
	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児健診を実施する場合、医師・臨床心理士等のスタッフの確保が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・延長時間の拡大が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開所時間を早める等の検討が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・講師の継続的な確保。また、講師の不足により先生の負担が増えている部分もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の人手不足が進んでいる。
<ul style="list-style-type: none"> ・経年劣化、事故等によりディスプレイの故障が増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援クラスの増加等により、一部ディスプレイの不足が発生。
<ul style="list-style-type: none"> ・通信環境の改善。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初、文部科学省が示していた通信速度の基準から、大幅に要求される基準が上がっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の児童生徒の全国的な増加を背景に、本町でも増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校の児童生徒を支援する希望教室の機能強化。

施策No.	施策タイトル	総括	解決された課題、効果
1-8	学校運営協議会の設置	A	・学校と地域との連携強化。
1-9	防犯・防災への取組みによる子育て環境の充実	B	・段ボールベッドの作り方や備蓄食料の保管といった町の取組などを子どもたちに直接説明できた。
1-10	小中学生への異文化交流プログラムの提供	B	・小中学生の異文化交流を推進。
1-11	子ども家庭総合支援拠点の設置	A	・子ども家庭総合支援拠点を設置した。専門職員を配置し、関係諸機関との連携の中心として機能できる体制を構築した。
1-12	子育て世代包括支援センターの継続	A	・母子健康手帳の交付時に地区担当保健師の面接、アセスメントを実施。生活支援シートを用いることで、妊娠届出時から子どもが3歳に到達するまで切れ目のない支援を継続して行っている。 ・「子育て世代包括支援センター」の機能は、令和6年度の「こども家庭センター」の設置に伴い統合された。
2-1	商工会等との連携による事業提案	A	・新型コロナウイルス感染症を含む困難な社会状況への対策といった面での町内事業者支援は実施することができた。
2-2	広域的な創業支援の実施	B	・遠賀郡内各町と地域の金融機関が連携して、創業支援相談及び創業塾などの取組を行った。遠賀郡内における創業を促進することができた。
2-3	融資制度の拡充による小規模事業者の支援	B	・「商工業振興制度融資貸付」の利用者に対し、町から保証料の補助を行うことで、制度融資の利用件数の向上を図ることができた。
2-4	新規就農者の掘り起し及び認定農業者数の増加	C	・認定農業者が増えたことで、担い手の確保が進んだ。

今後対応していくべき課題	
積み残された課題	新たに発生した課題
・学校ができることや地域にお願いしたいことの整理。	・学校教育課だけでなく、生涯学習課や福祉課、地域づくり課とも連携した地域づくりが必要。
・特定の学校でしか講座を行うことができなかった。 ・防犯講座を行うことができなかった。	・防犯・防災の講座を実施していることの周知が不十分である。
・参加人数の確保。	・継続的に参加人数を確保するため、中学生が学年全体で参加できる事業が必要。
・改正児童福祉法に基づく「こども家庭センター」として、次のステップに進んでいく必要がある。	・こども家庭センターとして、母子保健部門と組織統合を行い、さらなる連携の深化が必要である。支援を必要とする児童や家庭、妊産婦に対して、取りこぼすことなく支援ができる組織を目指す。
・令和2年度以降、必要な個人への支援プランの作成率100%を維持することで、ケースに応じた必要な支援を行ってきたため、現時点で積み残された課題はない。	・令和8年度に予定されている電子版母子健康手帳の普及に向けた母子保健DXに対応していかなければならない。
・新型コロナウイルス感染症という特別な状況下での支援を優先して実施することとなり、本来実施すべき事業を十分に行うことはできなかった。	・一部の事業は、国の臨時交付金の有無・交付額に影響されるため、事業決定から実施に至るまでのスケジュールがタイトになりがちであり、十分な検討期間を設けることができなかった。
・支援内容のマンネリ化(セミナー及び創業塾)。	・社会情勢にマッチした業種や、新たな事業形態まで切り込んだ支援体制の構築。
・新型コロナウイルス感染症の対策として国や県が実施した、より条件の良い制度融資が活用された期間があった。今後は、町の制度融資に頼らざるを得ない事業者のためにも、町制度融資の条件の緩和・拡充の検討が必要。	・国の有利な制度を利用して融資を受けた事業者が返済時期を迎え、資金繰りのために町制度融資を活用する事業者が増加した。その結果、直近の過去2年は、予算不足が生じた。
・担い手への農地の集約と確保に向けた体制づくりの推進。	・地元の特産品であるでかんにくの生産拡大にむけた農地の集約と確保。 ・新規認定農業者が耕作する土地が確保できていない。

施策 No.	施策タイトル	総括	解決された課題、効果
2-5	特産物の発掘及び創造	B	<p>【ICOTTO!MIZUMAKIへの町内生産品の出品数増加】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着実に町内生産品の出品数は増加し、一部の商品については人気があり、定着したものもある。 <hr/> <p>【でかんにくプロモーションイベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年イベント出展を継続することで、「水巻のでかんにく」の知名度・ファンが増加し、その結果、様々なメディアにも取り上げられ、水巻町の知名度の向上に寄与できた。
2-6	子育て応援宣言登録企業の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「子育て応援宣言企業」の登録事業所が少しずつ増えており、町内事業所において従業員の仕事と子育ての両立への理解が進んできていると考える。
2-7	オープンデータ化の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> ・行政が保有するデータをオープンデータ化して公開することによる、行政の透明性の向上及び経済の活性化の推進。
3-1	特定健診・特定保健指導・がん検診などの保健事業の実施	B	<ul style="list-style-type: none"> ・受診率は徐々に上がっているものの、コロナ禍以前の受診率に戻っておらず、目標を達成できていない。 ・しかし、AIで行動タイプ別に勧奨のハガキを送付するといった勧奨資材の工夫や医療機関への直接の説明などにより、徐々に受診率は上がっている。
3-2	スポーツを通じた住民の健康づくり	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯スポーツのきっかけとなる部分を、様々なターゲットに向けた体験企画を行った。「町民の方々が、楽しみながら健康的な生活を送れるように」との目標は達成されつつある。
3-3	審議会等委員における女性の比率の向上	C	<ul style="list-style-type: none"> ・全庁的に審議会等への女性委員の積極的な登用の依頼や、関係機関への男女共同参画推進の意識啓発を行ってきたが、目標は達成できなかった。
3-4	区長会自主研修の実施	A	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な問題や地域活動における課題などについて、各区長で意見交換や情報共有を図ることができた。
3-5	納税・納付の電子化（電子納付）	A	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュレス決済の導入による住民の利便性の向上及び行政側の事務効率が向上した。

今後対応していくべき課題

積み残された課題	新たに発生した課題
<p>【ICOTTO!MIZUMAKIへの町内生産品の出品数増加】 ・定着した商品もあるが、名産品・特産品と明確に呼べるものはない。</p>	<p>【ICOTTO!MIZUMAKIへの町内生産品の出品数増加】 ・名産品・特産品の定義が明確になっていないため、例えばブランド認定制度のように、名産品・特産品を明確に位置付ける仕組みが必要である。</p>
<p>【でかになにくプロモーションイベント】 ・でかになにく生産者の高齢化や新規生産者の確保不足、連作障害等により、生産量の減少が続いているため、生産量の確保・向上に取り組む必要がある。</p>	<p>【でかになにくプロモーションイベント】 ・イベント出展回数や、イベントでの効果を高めるためには、役場職員を中心とした取組では対応が困難となるため、民間活力の導入を検討する必要がある。</p>
<p>・登録件数が増えてはいるが、町内事業所全体に対する割合は少なく、さらなる事業の周知が必要である。</p>	<p>・登録期間が3年間のため、登録更新されず失効するケースがあるため、新規登録の勧奨だけでなく、登録済の事業所への勧奨も要検討。</p>
<p>・自治体のオープンデータを活用することへの注目度が低い ためか、他自治体も含め公開数が少ない現状がある。継続して 推進すべき事業かどうかについても検討が必要。</p>	<p>・利用者のニーズの把握。</p>
<p>・R6年度に実施した勸奨資材が効果的であったため、次年度 以降も継続して実施する。</p>	<p>・受診意向調査を行っているため、結果を踏まえ、今後の受診 勸奨に活かしていく。</p>
<p>・会員数を増やすことで、ゆう・あい倶楽部が持続できる状態 にする。</p>	<p>・中学校部活動の地域移行などについて、ゆう・あい倶楽部の ような総合型地域スポーツクラブが中心的な役割を担っている 自治体もある。・そのため、その役割を期待する声はある が、現在の体制など、全く期待に答えられる状況ではない。</p>
<p>・依然として各種審議会等の女性委員の割合が低いため、継 続的に取り組む必要がある。 ・委員の選出母体に女性が少ないといった背景もある。</p>	<p>・現時点では新たに発生した課題はないが、積み残された課 題が大きい。</p>
<p>・自治会未加入者対策、担い手不足などは、一度テーマとして 取り上げたが、根本的な解決が難しい問題である。 ・また、継続的に取り組むべきだが明確な答えがないため議 論が難しい。</p>	<p>・自主研修を開始して数年が経ち、テーマ選定に苦慮してい る。 ・自主研修で得た情報等を各地区の活動で還元できているか 不明瞭。</p>
<p>・河川使用料等、汎用調定で対応している一部の科目が キャッシュレスに対応していない。</p>	<p>・証明書等の手数料や施設利用料がキャッシュレスに対応して いないため、キャッシュレス決済端末の導入を検討する必要 がある。</p>

施策No.	施策タイトル	総括	解決された課題、効果
3-6	電子申請の利用促進	A	・国・県の電子申請サービスの活用について所管課と協働することで、電子申請対応件数を増やしたことにより、住民の利便性が向上した。
3-7 3-7-2	防災情報発信の充実 【R4年度～KPI追加】	A	・SNSから防災情報が配信されることを周知することができた。 ・平常時からSNSで防災情報を発信することで、町民の防災意識の向上につながった。
3-8	地域の防災力の向上	B	・防災講座を実施することで、地域の防災力が向上できた。
3-9	非常用大容量バッテリーの整備	A	・大規模災害に伴う停電が起こった際にも、住民の連絡手段・防災情報収集手段を確保することができた。
3-10	空き家バンク制度による 空き家物件の流通促進	A	・空き家バンク制度により、空き家の売買・賃貸を希望する所有者等が安心して不動産取引を行うことができ、利活用及び流通促進につながった。
3-11	定住促進奨励金制度による 移住定住の促進	A	・新築住宅や中古住宅を購入した町外からの転入者や町内転居者に対して、奨励金を支給することで、移住・定住促進に寄与することができた。
3-12	住宅新築のための 古家解体支援補助金制度の 利用促進	S	・新築住宅建築のために既存の古家を解体することにより、町内に存する空き家問題の解決にも寄与すると同時に、移住・定住の促進や美しい景観形成に寄与している。
3-13	老朽危険家屋等 解体補助金の利用促進	A	・強風時や災害時などに老朽危険家屋はその構造物が飛来したりする恐れがあり、そのことが周辺住民の不安を煽っている状況であるが、本制度を利用し危険家屋を解体することで所有者本人のみならず、周辺住民も安心して生活できるようになる効果がある。

今後対応していくべき課題	
積み残された課題	新たに発生した課題
<ul style="list-style-type: none"> ・国の提供する電子申請サービスに関して、必須手続き以外のものにおいては、対応が進んでいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・所管課毎の職員の意欲やスキルによって、電子申請が進んでいる部署とそうでない部署との差が大きくなっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・SNSからの防災情報が配信されることの周知。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な情報伝達手段を準備しているが、住民の認知度が低く、住民への周知が不足している。
<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織が未設置の自治会に対して、新設に向けた働きかけが十分に行えなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で出前講座を行うことができず、新規の自主防災組織設立に向けた働きかけができなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・整備はできたが、住民利用時の運用面などの検討を行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政から発信する防災情報に関する伝達手段に対して住民の認知度が低いため、どの手段で情報を取得してもらうかについて、住民への周知が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・市場価値のある空き家は、自然と民間事業者を通じて流通していくが、流通困難な空き家については、取り残されてしまう。老朽化も進んでいくため、町が主体的に関係機関と連携し解決を図る必要がある。 ・また、登録された物件は概ね流通しているが、中には登録申請者の希望する取引価格と売買希望者との希望価格の折り合いがつかなかったりして、契約に結び付かないケースも散見される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の所有者が売却や賃貸の意向があっても、道路に面していなかったり、災害警戒区域になっているなど、再建築が不可能な立地にある不動産については流通が難しく、跡地の利活用を含めた検討が必要となる。
<ul style="list-style-type: none"> ・国の補助金を利用すると、町の補助金が利用できないため、町内の住宅購入者全てに奨励金を支給することができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会に加入することが奨励金支給の要件の一つとなっているが、奨励金申請時に自治会に加入した後、すぐに自治会を退会してしまうケースがあり、継続的な自治会活動の妨げとなっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・補助額は解体に要する費用の半分で上限60万円と設定しているが、年々高騰している解体費や処分費、人件費等の影響で申請者に対する補助額はほとんどが上限の60万円となっている。 ・そのため、解体費に占める補助額の割合は年々減少している状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅を購入する世代のほとんどが利用する住宅ローンについて、住宅金融支援機構が提供する金利政策であるフラット35の地域連携型と連携できる可能性があるが、現行の要綱であれば連携できないため、希望する申請者が不利益を被る可能性がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・危険性の高い家屋を解体する場合でも、解体費用の全部を一度所有者等で支払って精算してもらう必要があるため、資力の低い所有者や相続人等の場合、補助制度があっても活用するのが難しい場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改正空家特措法により、管理が不十分な空き家の所有者等に対して是正措置のための勧告を行うと固定資産税の住宅用地の特例の解除が行われる。しかし、家屋の所有者と土地の所有者が相違している場合、家屋の所有者に勧告を行ったとしても特にデメリットがないという課題がある。

施策No.	施策タイトル	総括	解決された課題、効果
3-14	民間事業者等との連携による移住者支援施策の実施	B	・住宅金融機構との連携を行うことにより、移住者支援の一助となっているものと評価できる。
3-15	猪熊町営住宅跡地等町有地の積極的な活用	B	・頃末南の売却予定地及び母子寮跡地については全筆売却が完了し、良質な住宅地の供給ができた。 ・また、町が八幡西区に所有していた山林も売却でき、土地に係る管理費用を削減することができた。
3-16	公共下水道事業の推進	A	・下水道事業の推進により公衆衛生の向上や公共用水域の水質保全が図られている。安全で安心して暮らせる生活環境に寄与している。
3-17	JR水巻駅周辺の整備	S	・平成7年度にJR水巻駅南口が開設されて以降、多くの駅利用者に供用を行ってきたが、南口の狭い間口に併設された自転車駐輪場は常に不足していた。また、自家用車等の送迎用ロータリーが無いために駅付近の交差点まで交通負荷が強い状態であったが、整備事業により解決された。 ・更に賑わい施設の誘致を合わせて実施して、民間事業者による健康入浴施設として「いちょうの湯」「フィットネスクラブevery」が開設され、非常に多くの利用者で賑わっている。また、同じ敷地に併設された10階建て賃貸マンションも満室となるなど、町の賑わいづくりと移住定住施策へも大きく寄与したものとなっている。
3-18	公共交通体系の検討・見直し	A	・町公共交通のあるべき姿が明らかになり、後年度に実施予定である公共交通の全面見直しが計画的に進められる環境が整った。
3-19	JR東水巻駅周辺の整備【R4年度～新規】	A	・住民アンケート及び町外にある大学の協力を得て行った町外に在住している方へのアンケート結果に加えて、町内者と近隣大学の学生達にて構成されたワークショップにおいて、町内外からの視点を持って、現状および将来に向けた課題の検討を行うことが出来た。 ・また、主に北九州圏域で事業を行っている事業者数社の協力を得て、本町の分析や課題等のヒアリングを行う事ができ、実効性と実現性の高い基本構想策定に大きく寄与した。 ・自家用車での送迎を行う駅利用者への対応が喫緊の課題であったため、次段階の基本計画・事業化を行うまでの数年間を経ずに、令和6年度に仮設ロータリー設置した。

今後対応していくべき課題	
積み残された課題	新たに発生した課題
<ul style="list-style-type: none"> ・住宅金融支援機構が提供するフラット35の固定金利は、現在の変動金利よりやや高いものであるため、制度利用者は限られている。 ・そのため、すぐに町の補助制度と併用しての申請に結びつかない側面もあるが、今後変動金利が上がってきた際に、固定金利との金利差が小さくなってくると、この連携事業が奏功してくるものと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携型の中には様々なメニューが存在するため、連携させるためには、それぞれのメニューの趣旨に沿った町の要綱等を改正していく必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・猪熊町営住宅跡地利用については、近年の物価上昇の影響による原材料費の高騰などによって、住宅の建築数が減少しているといった近年の住宅事情を鑑みて、「民間活力を活用し、一般住宅用に宅地造成・分譲を行う」という当初方針を見直すことも検討。今後も次年度以降の売却に向け、民間事業者から幅広いアイデアを募集して、事業者が参加しやすい事業を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の物価上昇の影響による原材料費の高騰などにより、住宅の建築数が減少しており、猪熊町営住宅跡地については、一般住宅用に宅地の造成や分譲を行うことが難しくなっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度に下水道処理人口普及率95%の目標を達成し、順調に推移している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国庫補助(交付金)の配分が減少した。
<ul style="list-style-type: none"> ・左記のとおり、充実した整備を行うことができたため、整備について積み残された課題はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に端を発した、社会的移動の抑制により移動行動の変化が起こり、JRの利用者数自体が減少している。 ・今後は公共交通とのネットワーク性向上などの対策が必要となると考えられる。
<ul style="list-style-type: none"> ・後年度に実施予定である公共交通の全面見直しにあたり、具体策の策定が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の運行等の詳細を定める「水巻町地域公共交通運行計画」の策定において、課題の精査が必要となる。
<ul style="list-style-type: none"> ・次の段階である基本計画・事業化に向けた取組を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画・事業化に向けた取組において、課題の精査が必要となる。

施策 No.	施策タイトル	総括	解決された課題、効果
4-1	ホームページのリニューアル	A	<ul style="list-style-type: none"> ・水巻町ホームページのリニューアルによって、アクセス数が増加した。 ・CMS方式(コンテンツ管理システム)の導入によって、アクセシビリティが改善した。
4-1-2	ホームページのリニューアル ②【R4年度～KPI追加】	B	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時等の情報を迅速に掲載することが可能となった。 ・町公式SNSを開始したことにより、HPアクセス数が増加した。
4-2	移住定住に関するポータルサイト等への積極的な掲載	A	<ul style="list-style-type: none"> ・水巻町のことを十分に知らない町外の移住検討者に対して、町の魅力を分かりやすく発信することができた。 ・また、実際に移住をする際に利用できる補助金などの助成制度も掲載しており、移住・定住促進の一助となっている。
4-3	移住定住PR冊子による積極的な情報発信	S	<ul style="list-style-type: none"> ・水巻町に移住を検討している人たちのみならず、町外で開催されるイベント等でも配布・使用することにより、町の魅力をより多くの人たちに知ってもらうことができた。
4-4	水巻町シティプロモーションの実施	B	<ul style="list-style-type: none"> ・PRポロシャツなど一部の団体や事業所等でも購入実績があり、着用者も増え、一定の認知度向上の効果はあったと思われる。
4-5	ふるさと納税返礼品の充実	B	<ul style="list-style-type: none"> ・申込時のポータルサイトを増やし、返礼品の数も増えた。返礼品の選択の幅は広がった。
4-6	「マイナンバーカード」申請 お手伝いサービスの実施	B	<ul style="list-style-type: none"> ・申請時の煩雑な手続き等は解消され、最短5分でマイナンバーカードの申請が可能となった。 ・マイナンバーカード取得者が増加した。
4-7	関係人口の創出に向けた 取り組み【R4年度～新規】	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コスモスまつりの実施により、4万人を超える来場者を確保することができ、多くの人に水巻町に来てもらい、知ってもらうことができた。
5-1	町民活動の補助制度を作る	C	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取り組みが行えず、課題解決には至らなかった。
5-2	町の知名度向上	B	<ul style="list-style-type: none"> ・町の知名度向上という視点からは、TVなどを活用したプロモーションを実施し、一定の効果が見られたと思われる。
5-3	自治会の加入率向上	C	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取り組みが行えず、課題解決には至らなかった。

今後対応していくべき課題	
積み残された課題	新たに発生した課題
<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度にCMS方式(コンテンツ管理システム)を導入し、水巻町ホームページのリニューアルを行ったため、積み残された課題はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・CMS方式(コンテンツ管理システム)の導入によって、4-1-2に記載している新たな課題が生じた。
<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの作成内容は所管課の責任で行うため、作成する職員によってクオリティーが異なる。 ・全体的にSNSの発信数が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・CMS方式(コンテンツ管理システム)の導入から年月が経過しているが、ホームページの作成スキルが職員によって異なるため、誰でも分かりやすいページが作成できるように啓発が必要。 ・同様にSNSについても、積極的に活用してもらうための働きかけが必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・町のホームページ内のリンク箇所から専用ポータルサイトにアクセスするような形となっているが、今後はより多くの人にアクセスしてもらうためにも、町の各種情報誌等にもQRコードを掲載するなどして、本サイトへ直接アクセスしやすい環境を広げていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部から人を呼び込む観光資源等が豊かではないため、生活の利便性の高さや北九州市や福岡市方面へのアクセスのしやすさといった、日常面での魅力をいかに情報発信していくかが今後の課題と捉えられる。
<ul style="list-style-type: none"> ・冊子内の町の取り組みは、年々更新されているため、情報としての鮮度がやむを得ず落ちてしまうという課題がある。 ・今後は情報を更新できるような形でのデータ作成を行い、常にアップデートした情報を冊子にしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・UターンやIターンJターンなど様々な形態があるため、対外的な情報発信だけではなく、親元を離れた子どもが帰ってくるなど想定する必要がある。町内の各区に対する周知活動など、対町内者に向けた広報活動もより積極的に行っていく必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・PRポロシャツやみずまるグッズ等について、一定の売上はあるものの、町外者の購入実績は少ないと思われる。 ・町外のイベント等でのグッズ売上も多くはなく、町外における知名度は分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PRポロシャツは早期に完売したサイズや色があり、購入希望者への販売が出来ない状況が発生した。 ・PRポロシャツの価格について、物価高騰により、今後は従来の1,000円での販売が厳しくなっている。 ・町公式SNSの今後の展開が必要。・PR動画などによる町外へのアピールが必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・特定の人気商品に申込が集中していたため、今後の新たな人気商品の開発等が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度にふるさと納税返礼品の地場産品基準の見直しに伴い、売上の6割以上を占めていた大人気商品が登録不可となった。そのことにより、寄付額に関しては大幅な減収となった。
<ul style="list-style-type: none"> ・申請お手伝いサービスを実施し、住民のマイナンバーカード取得促進の一助となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マイナンバーカードの代理申請が出来ない方や、来庁が困難な方への申請支援。
<ul style="list-style-type: none"> ・コスモスまつりは町の魅力を知ってもらうことはできるが、水巻町に関わってもらう仕組みに不足している。 ・ふるさと納税や企業版ふるさと納税、様々な町の事業に係わる仕組みを今後充実させ、本来の意味の関係人口づくりに取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コスモスまつり以外の取組の検討。
<ul style="list-style-type: none"> ・第2期総合戦略の計画期間中では、具体的な課題の解決には至らなかった。 ・どのような活動に対して住民から支援ニーズがあり、町としてどのようにプロモーションにつなげていくべきであるのか、改めて検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点では新たに発生した課題はないが、積み残された課題が大きい。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の概要に記載の「どこからどこまでが水巻町ということが分からない」という点に関しては解決されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知名度向上のための手法の再検討や評価方法の確立。
<ul style="list-style-type: none"> ・区長会自主研修において、区長間での意見交換等が行われたが、具体的な課題の解決には至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点で具体的な取り組みに至っていないため、新たな課題は発生していない。

2)KPI（重要業績評価指標）の検証

施策No.	施策タイトル	評価	KPI
1-1	待機児童対策	◎	各年度4月1日時点の待機児童の解消
1-2	継続保育の対象年齢の撤廃	◎	継続保育の対象年齢の撤廃
1-3	就学に向けての巡回相談事業の実施 (5歳っ子すくすく相談)	◎ ○	巡回相談実施箇所数 9か所/年度
1-4	放課後児童クラブ 延長保育の開始	◎	放課後児童クラブ延長保育の実施
1-5	児童生徒の学力向上	◎	少人数授業を実施するための講師の配置数を14名にする
1-6	電子黒板の増設	◎	5年間で普通教室・特別教室 整備率100%
1-6-2	ICTを活用した授業の推進 【R4年度～施策追加】	◎	ICTを活用した授業を週4日行う学校の割合 100%
1-7	不登校の未然防止	◎	スクールソーシャルワーカーの配置体制を延べ週4日以上に (R4年度見直し)
1-8	学校運営協議会の設置	◎	5年間で100%設置
1-9	防犯・防災への取組みによる 子育て環境の充実	△	子どもを対象とした防犯・防災講座等の実施回数5回/年度
1-10	小中学生への異文化交流 プログラムの提供	△	異文化交流イベント等参加者数75名/年度を目指す (R4年度に下方修正)
1-11	子ども家庭総合支援拠点の 設置	◎	R3年度に子ども家庭総合支援拠点の設置
1-12	子育て世代包括 支援センターの継続	◎	必要な個人への支援プランの作成率100%を維持

理由・要因
・令和4年度から4月1日時点の待機児童の解消を達成できているため。
・令和4年度から育児休業中の上の子の継続保育について、年齢制限を撤廃したため。
・就学前のお子さんの発達を、関係部署でスムーズに共有することができ、相談等につなげることができた。
・令和2～5年度については、巡回相談を実施し、要支援者に対し療育相談等の支援に繋ぐことができた。 ・令和6年度は、来年度以降の5歳児健診の検討に伴い、巡回相談としては未実施であるが、療育相談の案内等で対応できている。
・早期に延長保育に着手したことで、予定通り事業を継続できている。
・前年担当していただいた講師にいち早く連絡し、引き続きの依頼をしている。
・タブレットの普及に伴い、コストを抑え、機能が簡素化された大型ディスプレイの設置が可能となった。
・通信環境等の課題はあるが、ICT支援員のサポートもあり、週4日以上タブレットを使用している学校は増加している。
・関係機関からの推薦により、いち早く人材を確保し、関係機関等につなぐためのケース会議等を重ねている。
・『みんなで育てよう水巻の子ども』を目標に、早期に学校運営協議会を全校で立ちあげた。
・新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度以降、講座の要望が減少しており、それ以降についても実施回数が回復できていない。
・事業について、中学校にチラシの配布や広報等で周知・募集をしていますが、参加人数が少なく苦慮しているため、事業を継続するかも含め検討する必要がある。
・児童相談センターに子ども家庭総合支援拠点を設置し、母子保健部門をはじめとする関係諸機関との連携の中心として、児童虐待防止や支援の必要な家庭への対応を行った。
・母子健康手帳の交付を面談にて行うとともに、アンケートを実施している。 ・面談後にアセスメントを行い、ハイリスク者はこども家庭センター(児童福祉機能)と月1回の会議等で連携を図りながら、必要に応じて個別に支援プランを作成している。

施策No.	施策タイトル	評価	KPI
2-1	商工会等との連携による事業提案	○	5年間で累計15件
2-2	広域的な創業支援の実施	△	5年間で累計40件
2-3	融資制度の拡充による小規模事業者の支援	△	5年間で累計30件
2-4	新規就農者の掘り起し及び認定農業者数の増加	×	5年間で累計5人
2-5	特産物の発掘及び創造	△	R6年度までにICOTTO!MIZUMAKIへの町内生産品の出品数を30品増加させる(R4年度に見直し)
		◎	でかにんにくのプロモーションのためのイベント出店5回/年度
2-6	子育て応援宣言登録企業の推進	◎	5年間で登録企業数12件
2-7	オープンデータ化の推進	△	5年間でオープンデータ公開数20件
3-1	特定健診・特定保健指導・がん検診などの保健事業の実施	△	R5年度に特定健診受診率42%
3-2	スポーツを通じた住民の健康づくり	△	スポーツクラブ加入者数450人/年度
3-3	審議会等委員における女性の比率の向上	△	審議会等委員における女性の比率34%
3-4	区長会自主研修の実施	◎	区長会自主研修を4回/年度実施
3-5	納税・納付の電子化(電子納付)	○	キャッシュレス決済比率25%(R6年度上方修正)

理由・要因
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症や急速な物価高騰など、町内事業者に大きな影響を及ぼすような社会状況が原因で、新たな課題への対策として、商工会との連携と迅速な事業の実施が優先的に求められた。そのため、本来実施すべき事業に取り組むことができなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症や物価高騰など、厳しい社会状況が続いたことで、不況の業種からの乗り換えや脱却のために、新規創業のニーズは高くなっていると推測される。一方で、実際に創業するハードルは高く、創業までたどり着くことができていないと思われる。
<ul style="list-style-type: none"> ・国が用意した、新型コロナウイルス感染症対策のための無利子無担保貸付等のメニューが優先的に活用された。結果として町の制度融資の需要が減少した。
<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取り組みは実施できておらず、認定農業者への土地の集約が上手く進んでいない。
<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度から5年度までは、概ね順調に推移していたが、令和6年4月1日より、ICOTTO!MIZUMAKIの物販に関する運営形態が見直された。 ・それに伴い、出品される商品及び商品数が変更になっており、その影響で増加した出品数を正しくカウントすることが困難な状況となっているため、令和6年度の達成状況について把握できていない。
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントが制限される状況が続いたが、「水巻のでかにんにく」を活かした独自のイベントの実施やその後の各種イベントへの積極的な出展・参加により目標を達成することができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・啓発チラシの同封などの継続的な取り組みにより、少しずつ制度の周知と、企業としての子育て支援への理解が進んでいると思われる。
<ul style="list-style-type: none"> ・オープンデータ化すべき内容の精査が難しく、当初の予定よりも公開数を増やすことができなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため、住民が受診自体を控える時期があった。 ・また、毎年継続的に受診していた住民が、受診しなくなるケースもあった。
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍前に設定した数値目標であり、目標が高すぎた。
<ul style="list-style-type: none"> ・公募による住民代表の委員等は積極的に女性を登用するよう配慮しているが、あて職や関係機関からの推薦による委員は選出母体の女性の割合等の影響を受けている。 ・社会全体で男女共同参画の意識を高め、様々な職種における女性比率を向上させる必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・区長会総会、役員会による意見や事務局提案により、身近な問題や地域活動における課題の中から研修テーマを決定している。 ・区長の負担軽減のため、区長会総会后に自主研修の時間を取ることで、スケジュールに配慮している。
<ul style="list-style-type: none"> ・町独自のスマートフォンアプリによるキャッシュレス決済の導入以降、地方税共通納税システム(eLTAX)によるキャッシュレス決済が新たに追加されたため、結果的にキャッシュレス決済率の大幅な向上に繋がったものと考えられる。

施策No.	施策タイトル	評価	KPI
3-6	電子申請の利用促進	○	電子申請利用件数40件(R6年度上方修正)
3-7	防災情報発信の充実	◎	SNSによる防災情報発信開始
3-7-2	防災情報発信の充実② 【R4年度～KPI追加】	◎	SNSによる平常時の情報発信を年間5件行う
3-8	地域の防災力の向上	△	自主防災組織設立自治会数19件
		△	地域を対象とした防災講座の実施回数5回/年度
3-9	非常用大容量バッテリーの整備	◎	非常用大容量バッテリーの整備をR6年度までに2台行う
3-10	空き家バンク制度による 空き家物件の流通促進	○	空き家バンクへの物件登録件数 5年累計40件 (R6年度上方修正)
3-11	定住促進奨励金制度による 移住定住の促進	△	定住促進奨励金交付件数 5年累計500件
3-12	住宅新築のための 古家解体支援補助金制度の 利用促進	◎	住宅新築のための古家解体支援補助金交付件数5年累計80件 (R6年度上方修正)
3-13	老朽危険家屋等 解体補助金の利用促進	◎	老朽危険家屋等解体補助金交付件数 5年累計40件 (R5年度上方修正)
3-14	民間事業者等との連携に よる移住者支援施策の実施	○	新規事業の開始
3-15	猪熊町営住宅跡地等 町有地の積極的な活用	△	売却済町有財産延べ面積 5年間で累計19,000㎡
3-16	公共下水道事業の推進	◎	下水道処理人口普及率95%

理由・要因
<ul style="list-style-type: none"> ・国・県の電子申請を遅滞なく実装したため、電子申請サービスの対応数を増やすことに繋がったと考えられる。今後は、国・県において必須とされていない申請を電子申請に対応させていくことが課題と考えられる。
<ul style="list-style-type: none"> ・SNSからの防災情報発信を開始することができたため。
<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度及び令和6年度に目標である年間5件を達成することができたため。 ・平常時からの呼びかけにより、住民の防災意識の向上を図ることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で、地域での出前講座ができずに、新たな自主防災組織の設立に向けた働きかけが十分にできなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で、地域からの出前講座の要望が減少した。
<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の消防用資機材搬送車の導入に合わせて、消防力の強化及び住民の連絡手段・防災情報収集手段を確保することを目的に、蓄電池を配備することができ、合計3台の整備が完了する。
<ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンク制度の取り組みは、登録された物件が概ね流通している状況である。 ・今後も本制度について積極的に周知していく必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・住宅購入から1年間の申請期間を設けているが、申請者の中で申請漏れが発生するケースはほとんどなく、概ね順調に申請がなされている状況である。 ・本奨励金を含めた移住・定住施策が奏功し、ここ数年の社会増に少なからず貢献しているものと評価できるものである。 ・ただし、当初の目標の設定値が高く、目標の達成には至らなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・新築を計画している人のみでなく、住宅メーカーからも本補助制度を利用するための問い合わせが多くあり、住宅購入の際の一助になっていると評価できる。 ・また、空き家を処分したい所有者にとっても、空き家を解体せずにそのまま売買することにより、新しい所有者が新築を建てる際に本補助制度を利用できることから、町の空き家対策推進の一助となっている。
<ul style="list-style-type: none"> ・個別訪問や文書の送付を継続的に行うことで、補助金を着実に交付することができた。 ・解体に伴う費用の一部を補助することで、危険家屋の解体を促進し、周辺住民の安心へとつながっている。また、跡地利用の推進にも寄与している。
<ul style="list-style-type: none"> ・住宅金融支援機構との連携を行う事業が増え、住宅購入支援の裾野を広げていくことができているものの、制度の利用者がまだ少ないため広報が不足しているものと思われる。 ・町HPでは連携内容について掲載をしているが、今後あらゆる場面で積極的に周知していく必要があると思われる。
<ul style="list-style-type: none"> ・近年の物価上昇の影響による原材料費の高騰などにより、住宅の建築数が減少しているため、猪熊町営住宅の跡地利用については当初の方針の見直しを含め、次年度以降の売却に向け、事業者が参加しやすい事業を検討する。
<ul style="list-style-type: none"> ・計画的かつ継続的に整備を行っていくことで、下水道処理人口普及率を伸ばすことができた。

施策No.	施策タイトル	評価	KPI
3-17	JR水巻駅周辺の整備	△	JR水巻駅乗降客数4,600人/日
3-18	公共交通体系の検討・見直し	◎	住民ニーズ及び移動調査をR2年度に実施
3-19	JR東水巻駅周辺の整備【R4年度～新規】	△	R6年度までに基本計画及び実施計画を策定する
4-1	ホームページのリニューアル	◎	水巻町ウェブサイトアクセス数 R6年度に年65万件
4-1-2	ホームページのリニューアル②【R4年度～KPI追加】	△	水巻町ウェブサイトアクセス数（訪問者数）R6年度までに累計300万件
4-2	移住定住に関するポータルサイト等への積極的な掲載	◎	移住定住専用ポータルサイトアクセス数(訪問者数)5年間で累計20,000件(R4年度見直し)
4-3	移住定住PR冊子による積極的な情報発信	◎	移住定住PR冊子の配布部数5年間で累計1,600冊(R6年度上方修正)
4-4	水巻町シティプロモーションの実施	△	PRポロシャツ、みずまるキーホルダーの累計販売額 1,000万円(5年間)
4-5	ふるさと納税返礼品の充実	○	R6年度までに返礼品数210品(R6年度上方修正)
4-6	「マイナンバーカード」申請お手伝いサービスの実施	△	マイナンバーカードの取得R6年度末までに27,000人
4-7	関係人口の創出に向けた取り組み【R4年度～新規】	○	本町の知名度向上を目指し、町外からも集客が見込めるイベントを年1回実施する
5-1	町民活動の補助制度を作る	×	R6年度までに検討を終える
5-2	町の知名度向上	×	
5-3	自治会の加入率向上	×	

理由・要因
<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の流行を発端として、JR九州全体の利用客数が令和5年度はコロナ禍前の平成30年度との比較で94%となっています。その影響を受け、JR水巻駅の乗降客数自体も減少している現状がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・策定完了は予定よりもやや遅くなったが、地域公共交通計画の策定に向けて効果的な調査が実施できた。
<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度に基本構想を策定したが、他事業との年度間調整により、基本計画及び実施計画の策定は令和7年度以降となった。
<ul style="list-style-type: none"> ・水巻町ホームページをCMS方式(コンテンツ管理システム)とすることで、所管課が利用しやすく、情報を迅速に掲載できるようになった。新型コロナウイルス感染症の影響も大きかったと推測されるが、リニューアルによりアクセス数についても、目標値を大きく上回ることができた。
<ul style="list-style-type: none"> ・魅力的なコンテンツを作成するための全庁的な機運を作ることができなかった。 ・また、SNSの発信件数が少なく、ホームページの閲覧数の増加に繋げることができなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・移住・定住に関するだけでなく、子育て支援策や教育環境といった行政の情報や、買い物や通勤・通学の利便性といった日常生活での住み心地など、町の魅力を多角的に発信できたことが、このアクセス数に繋がっているものと考えられる。 ・また、実際に町外から移住してきた人を対象に移住者インタビューを行い、その内容を掲載することで移住検討者に移住後の生活をイメージしやすいコンテンツとなっていることも要因と考えられる。
<ul style="list-style-type: none"> ・町の魅力を分かりやすく、簡潔に説明できる媒体として非常に重要な役割を果たしている。 ・対外的な周知活動に加え、町内での会議・イベント等でもPR活動用として幅広く使用している。より多くの方に町の魅力を知ってもらうことができていると評価できる。
<ul style="list-style-type: none"> ・PRポロシャツの販売は定着したが、令和4年度以降は作成枚数を減らしたこともあり、目標値の達成に至っていない。みずまろキーホルダーは、令和4年度113個、令和5年度227個と販売数を伸ばしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・申込時のポータルサイトを増やし、返礼品の数も増えた。返礼品の選択の幅は広がった。
<ul style="list-style-type: none"> ・お手伝いサービスの実施で、本人が身分証明書を持参し来庁すれば、手軽にマイナンバーカードの申請が可能となった。国の施策である「マイナポイント事業の実施」や今後、健康保険証が廃止されることに伴って、当初の目標値(7,000人)より大幅に実績値は増加した。(R6年9月末の交付実績値22,678人)
<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年以降、コスモスに関するイベントを毎年実施することはできたが、今後はこれらのイベントを通して、本来の意味の関係人口づくりを考えていく必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の担当部署が明確化できず、町民からの支援ニーズも顕在化しなかったため、前向きな取り組みに至らなかった。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業のタイトルと概要、KPIの関連性が分かりにくく、事業の設定に問題があると思われる。 ・令和7年度に町内に設置している看板のリニューアルが予定されており、問題解決の一助となる可能性がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により検討が遅れ、効果的な施策の立案に至らなかった。 ・区長会自主研修において、区長間での意見交換等が行われたが、具体的な課題の解決には至らなかった。

資料3. 水巻町明るいまちづくり推進委員会

1) 委員名簿

(敬称略)

役職	氏名	所属団体等
会長	内田 晃	北九州市立大学 副学長
副会長	岩尾 健	水巻町商工会
委員	島尻 芳人	九州共立大学 経済学部 地域創造学科 教授
委員	岡田 選子	水巻町議会議員
委員	高橋 恵司	水巻町議会議員
委員	大池 光世	住民代表
委員	緒方 咲凜	住民代表(公募)
委員	川北 幸伸	住民代表(公募)
委員	池田 智信	遠賀信用金庫本店長
委員	森山 公治	伊左座小学校長

※委員名簿は、第3期水巻町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定時点のものです。

2) 開催経緯（令和6年度）

日程	議題
<p>第1回 令和6年8月1日(木)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆委員の委嘱について ◆仮議長の選出について ◆会長・副会長の選出について ◆前年度(令和5年度)の実績に関する報告及び提案について ◆第3期水巻町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について
<p>第2回 令和6年10月2日(水)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆諮問について ◆地域ビジョンの策定に向けた今後の流れについて ◆人口ビジョンについて ◆住民アンケート結果について ◆第1期及び第2期総合戦略の検証(概要)について
<p>第3回 令和6年10月30日(水)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域ビジョン策定に関するワークショップについて
<p>第4回 令和6年12月2日(月)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆第3期水巻町まち・ひと・しごと創生総合戦略 骨子(案)について ◆第3期水巻町まち・ひと・しごと創生総合戦略(仮称)における政策目標・基本的方向・具体的な施策について
<p>第5回 令和7年1月15日(水)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆第3期水巻町まち・ひと・しごと創生総合戦略 冊子(案)について ◆第3期水巻町まち・ひと・しごと創生総合戦略における主な取組(案)について ◆今後のスケジュールについて
<p>第6回 令和7年2月12日(水)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆第3期水巻町まち・ひと・しごと創生総合戦略におけるパブリックコメントに関する対応について ◆第3期水巻町まち・ひと・しごと創生総合戦略(最終案)について

第3期水巻町まち・ひと・しごと創生総合戦略

令和7年3月発行

水巻町明るいまちづくり推進委員会

(事務局:水巻町企画課企画係)

〒807-8501 福岡県遠賀郡水巻町頃末北一丁目1番1号

TEL 093-201-4321 FAX 093-201-4423

ホームページ <https://www.town.mizumaki.lg.jp/>
